KAGAWA UNIVERSITY

香　川　大　学

# インターナショナルオフィス年報

第５号（2013年度）


【インターナショナルオフィス全体に関わる報告】
巻頭言 …… 1
香川大学国際化の基本方針と重点戦略課題 …… 2
４＆１プラン（「留学生400人の受け入れ・日本人学生100人の留学派遣」に向けての取り組み）進捗状況の報告 …… 3
学術交流協定一覧 …… 5
平成25年度国際交流資金事業実施状況 …… 7
平成25年度インターナショナルオフィス年間行事 …… 8
2013年度学長等表敬訪問 …… 9
インターナショナルウィーク …… 11
FD･SD ワークショップ …… 13
平成25年度学長主催外国人留学生交歓会 …… 14
帰国留学生ネットワーク中国支部第３回総会開催 …… 15
民間宿舎借り上げ事業 …… 16
大学の世界展開力強化事業（SUIJI） …… 17

【国際研究支援センターに関わる報告】
第５回チェンマイ大学・香川大学合同シンポジウムの開催準備状況 …… 18
平成25年国際研究支援センター研究会シリーズ（第１～２回）の開催 …… 21
学術交流協定締結校との交流状況（受け入れ） …… 22
学術交流協定締結校との交流状況（派遣） …… 23
外国人研究者等の受け入れ状況 …… 24
平成 25 年度国際学会・シンポジウム開催状況 …… 26
日本学術振興会「二国間交流事業オープンパートナーシップ共同研究」開始ならびに国際セミナー「糖尿病・肥満の比較研究と国際貢献」の開催 …… 28

【留学生センターに関わる報告】
日本語教育カリキュラム等の報告 …… 29
相談事業の報告 …… 34
全学共通科目「Study Abroad」授業の報告 …… 37
全学共通科目「海外体験型異文化コミュニケーション」授業（タイ研修）の開講 …… 38
海外語学研修プログラム（韓国語）の報告 …… 39
第19回日本語語学研修プログラム報告 …… 40
平成25年度短期（６ヶ月）日本語プログラム報告 …… 44
各部局主催の短期受入プログラムにおける日本語授業の報告 …… 46
留学生対象各種進学説明会 …… 48
課外教育行事 …… 50
瀬戸内国際芸術祭2013に関連する取り組み …… 51
交流活動報告 …… 53
就職支援プログラム …… 57

【資　料】
インターナショナルオフィス規則 …… 60
インターナショナルオフィス会議規程 …… 63
国際研究支援センター規程 …… 65
留学生センター規程 …… 67
教職員一覧 …… 69

# 香川大学インターナショナルオフィス年報

第５号（2013年度）

目　　次


【インターナショナルオフィス全体に関わる報告】
巻頭言…… 1
香川大学国際化の基本方針と重点戦略課題…… 2
４＆１プラン（「留学生400人の受け入れ・日本人学生100人の留学派遣」
に向けての取り組み）進捗状況の報告…… 3
学術交流協定一覧…… 5
平成25年度国際交流資金事業実施状況…… 7
平成25年度インターナショナルオフィス年間行事…… 8
2013年度学長等表敬訪問…… 9
インターナショナルウィーク……11
FD･SD ワークショップ ……13
平成25年度学長主催外国人留学生交歓会……14
帰国留学生ネットワーク中国支部第３回総会開催 ……15
民間宿舎借り上げ事業 ……16
大学の世界展開力強化事業（SUIJI） ……17

【国際研究支援センターに関わる報告】
第５回チェンマイ大学・香川大学合同シンポジウムの開催準備状況 ……18
平成25年国際研究支援センター研究会シリーズ（第１～２回）の開催……21
学術交流協定締結校との交流状況（受け入れ） ……22
学術交流協定締結校との交流状況（派遣） ……23
外国人研究者等の受け入れ状況 ……24
平成 25 年度国際学会・シンポジウム開催状況 ……26
日本学術振興会「二国間交流事業オープンパートナーシップ共同研究」開始
ならびに国際セミナー「糖尿病・肥満の比較研究と国際貢献」の開催 ……28

【留学生センターに関わる報告】
日本語教育カリキュラム等の報告 ……29
相談事業の報告 ……34
全学共通科目「Study Abroad」授業の報告 ……37
全学共通科目「海外体験型異文化コミュニケーション」授業
（タイ研修）の開講 ……38
海外語学研修プログラム（韓国語）の報告 ……39
第19回日本語語学研修プログラム報告……40
平成25年度短期（６ヶ月）日本語プログラム報告……44
各部局主催の短期受入プログラムにおける日本語授業の報告 ……46
留学生対象各種進学説明会 ……48
課外教育行事 ……50
瀬戸内国際芸術祭2013に関連する取り組み……51
交流活動報告 ……53
就職支援プログラム ……57

【資　料】
インターナショナルオフィス規則 ……60
インターナショナルオフィス会議規程 ……63
国際研究支援センター規程 ……65
留学生センター規程 ……67
教職員一覧 ……69

# 巻　頭　言

インターナショナルオフィス長　板　野　俊　文

平成21年４月に香川大学インターナショナルオフィース（KUIO）が発足し、留学生の受け入れと、国際研究支援を通して、香川大学の地域に根ざした国際を推進して参りました。

その一方で国立大学法人をとりまく環境は大きく変化し、「留学生30万人計画」や「日本人学生等30万人の海外交流計画」が策定され、グローバル人材育成が大きくクローズアップされてきています。

インターナショナルオフィスでは従来から設定した「香川大学国際化の基本方針と重点戦略課題（平成23年１月31日）に加え、平成25年度には、「2023年までに留学生受入400人・日本人派遣100人」（以下、４＆１と略）目標設定を行いました。また、この目標達成のためのプロジェクトチームを発足させ、問題点の整理・解決をはかり、実現にむけて着実に実績をあげております。

一方、従来から行われている国際交流活動も継続して行われており、「地域との連携を基盤にした、地域に根ざした国際化」も着実に推進しています。

本年度の年報はこのような視点にたってKUIOの様々な活動を報告いたします。これらの活動がさらに進んでいくことを願い、皆様方の御批判、御教示を頂ければ幸いです。

# 香川大学　国際化の基本方針と重点戦略課題

～地域との連携を基盤に、地域に根ざした国際化を推進～　平成23年1月31日役員会審議承認

## 基　本　方　針

### ○地域に根ざした国際化

●社会・経済のグローバル化や地球規模の課題に対応し、アジア・太平洋諸国等をはじめ、広く国際社会に貢献できる分野を重点に、海外の大学・研究機関等との学術・研究交流を促進する。

●大学の持つ国際化に関する知識・経験やネットワークを地域と共有し、地域の行政、企業、住民等の国際化へのニーズに応える。

●人と人とのつながりを基本に、地域の様々な国際交流活動との連携を深め、地域の国際化に貢献する。

### ○国際的通用性を備えた人材の育成

●世界で活躍できる国際性豊かなグローバル人材を育成するとともに、アジア・太平洋諸国等から優れた留学生・研究者を受け入れ、相互の人材育成・交流を促す、双方向のグローバル教育を実践する。

●世界を舞台とする社会貢献やキャリアデザインにつながるグローバルな学生交流の機会を提供する「世界の若者に開かれた大学」を目指す。

●海外留学や国際ボランティアなど、国際的な視野を拡げ、経験を豊かにする学生の活動を積極的に支援する。

### ○国際化のための環境整備

●海外の大学等との学生・研究者の相互派遣の拡大に向け、海外交流拠点のネットワーク整備を進めるとともに、教職員や学生による国際的な研究・交流活動を積極的に支援する。

●国際的な学術交流の促進に向け、研究環境のより一層の充実・強化を図るとともに、留学生の生活面を含めた教育環境の整備を地域の支援・協力を得ながら進める。

●多様な言語やライフスタイルを持つ海外からの留学生・研究者と本学学生・教職員との自由闊達な交流を促す「キャンパスの国際化」を推進する。

## 重点戦略課題

●海外の大学・研究機関等との間で重点化すべき学術・研究交流分野の抽出並びに情報発信
・各学部における研究成果や研究テーマの整理・データベース化、国際的な学術交流ニーズ、国際社会への貢献可能性などを踏まえ、重点分野を抽出し、ターゲットとすべき大学・研究者等に向けて情報発信

●地域を交えた国際交流活動などによる地域の国際化への貢献
・地域の自治体や企業等の交流ニーズを踏まえ、協定大学をはじめ、相互交流を促進する相手国・大学等を重点化するとともに、地域を交えた国際交流活動などを通じ、地域の国際化に貢献

●グローバル人材の育成に向けたプログラム化
①グローバル人材に求められる能力要素を踏まえて教育プログラムを見直し、各学部・大学院カリキュラムに反映
（例：英語による教養・専門科目、ディベートなどの必修化、各年次・卒業までに到達する語学力の目標水準を能力に応じて設定し、着実に達成）
②協定大学とのネットワークを活かした多言語プログラムや多様な留学コースを設置し、単位化するなどにより、学生の国際的視野を早期に拡大
③アジア・太平洋諸国等から優秀な留学生や研究者を受け入れ、本学の学生との一体的な教育や、研究者間相互の学術交流を促す特色あるコースを設置し、大学のブランド化を促進

●海外交流拠点のネットワークを効果的に整備するため、協定大学を重点対象として、交流内容や諸条件を打診・調整

●留学生・外国人研究者のニーズや視点に立った支援の仕組みを整備するとともに、「キャンパスの国際化」を実現
①留学生・外国人研究者のキャリア形成と地域社会の国際化ニーズをマッチングする仕組みを、地域の行政や企業等の支援・協力を得ながら構築
②多言語による情報提供のシステム化や、美しく安全で快適なキャンパスを目指した点検・整備

# ４＆１プラン（「留学生400人の受け入れ・日本人学生100人の留学派遣」に向けての取り組み）進捗状況の報告

インターナショナルオフィス　ロン　リム

平成25年度に、学長提唱の「４＆１」プランは、10年後、留学生400人の受け入れと日本人学生100人の派遣を目的とする取組みである。実現への道として、プロジェクトチームを立ち上げて、様々な課題と解決法を検討することにした。初年度の平成25年に、６回のプロジェクトチームの会議を開催した。それぞれの会議で検討した議題は下記の通りである。

〇第１回
受け入れと派遣の現状と課題について
今後の方向性について

〇第２回
４＆１プランの背景・必要性について

〇第３回
４＆１PT 要項案等
IO からの反省と対策について
事務職員の国際化対応について
宿舎の現状について
大学評価機構の大学機関別選択評価事項Ｃ「教育の国際化の状況」について

〇第４回
各部局からの反省と対策について
教育再生実行会議提言「これからの大学教育の在り方について」
職員の英語能力の向上

〇第５回
各部局からの反省と対策について
職員の語学力の向上について
「ワンストップサービス」について
グローバル関連授業の実施状況について
チェンマイ大学との単位互換について

○第 6 回

香川大学グローバル人材育成特定基金（仮称）及び香川大学国際寮設立特定基金(仮称)について

チェンマイ大学社会科学部との交流について

４＆１評価委員会について

SUIJI セミナー、チェンマイ合同シンポジウムについて

以上

# 学術交流協定一覧

（2014年３月31日現在）

## ●大学間協定〔16カ国・地域　52機関〕

| 機関名 | 国・地域名 | 大学間協定締結年月日 | 実施細則等締結部局 |
|---|---|---|---|
| カセサート大学 | タイ王国 | 1988年８月25日<br>再締結（1999年１月20日） | 農学部、大学院農学研究科 |
| チェンマイ大学 | タイ王国 | 1990年４月24日 | 農学部、大学院農学研究科<br>工学部、大学院工学研究科<br>教育学部<br>医学部、大学院医学系研究科<br>医学部看護学科、大学院医学系研究科看護学専攻 |
| ルイビル大学 | アメリカ合衆国 | 1997年９月２日 | 法学部、大学院法学研究科 |
| サボア大学 | フランス共和国 | 2000年３月24日 | 工学部、大学院工学研究科 |
| 南京農業大学 | 中華人民共和国 | 2001年７月４日 | 農学部、大学院農学研究科 |
| ミュンヘン工科大学 | ドイツ連邦共和国 | 2002年２月13日 | 工学部、大学院工学研究科 |
| メチョー大学 | タイ王国 | 2002年３月７日 | 農学部、大学院農学研究科 |
| 国立政治大学 | 台湾 | 2002年３月19日 | 法学部、大学院法学研究科 |
| ラインマイン大学 | ドイツ連邦共和国 | 2002年９月23日 | 経済学部、大学院経済学研究科 |
| コロラド州立大学 | アメリカ合衆国 | 2002年10月８日 | － |
| 韓国海洋大学 | 大韓民国 | 2002年12月18日 | 工学部、大学院工学研究科 |
| 上海大学 | 中華人民共和国 | 2003年９月１日 | 経済学部、大学院経済学研究科 |
| ハルビン工程大学 | 中華人民共和国 | 2005年２月23日 | 工学部、大学院工学研究科<br>大学院地域マネジメント研究科 |
| 大邱大学 | 大韓民国 | 2005年５月17日 | 経済学部 |
| カディス大学 | スペイン | 2006年１月31日 | 農学部、大学院農学研究科 |
| 南ソウル大学 | 大韓民国 | 2006年３月７日 | 工学部、大学院工学研究科<br>経済学部 |
| 中国海洋大学 | 中華人民共和国 | 2006年12月19日 | 法学部、大学院法学研究科 |
| アアルト大学化学技術学部 | フィンランド共和国 | 2007年３月13日 | 農学部、大学院農学研究科 |
| 真理大学 | 台湾 | 2007年６月11日 | 経済学部 |
| 西北大学 | 中華人民共和国 | 2007年10月17日 | 経済学部 |
| 南ボヘミア大学 | チェコ共和国 | 2008年11月12日 | 教育学部 |
| ハンバット大学 | 大韓民国 | 2008年11月14日 | 工学部、大学院工学研究科 |
| 北京工業大学 | 中華人民共和国 | 2008年12月11日 | － |
| 電子科技大学 | 中華人民共和国 | 2009年６月１日 | 工学部、大学院工学研究科 |
| 天津農学院 | 中華人民共和国 | 2009年６月４日 | 農学部、大学院農学研究科 |
| フランシュ・コンテ大学 | フランス共和国 | 2009年７月24日 | 工学部、大学院工学研究科 |
| ブルネイ・ダルサラーム大学 | ブルネイ・ダルサラーム国 | 2009年11月８日 | － |
| チュラロンコン大学 | タイ王国 | 2010年２月１日 | － |
| シェレバングラ農科大学 | バングラデシュ人民共和国 | 2010年５月10日 | 農学部、大学院農学研究科 |
| コンピエーネ技術大学 | フランス共和国 | 2010年７月８日 | 工学部、大学院工学研究科 |
| トリブバン大学 | ネパール連邦民主共和国 | 2010年11月２日 | － |
| ムルシア大学 | スペイン | 2010年12月９日 | － |
| バッタンバン大学 | カンボジア王国 | 2010年12月９日 | 農学部、大学院農学研究科 |
| 王立農業大学 | カンボジア王国 | 2010年12月13日 | 農学部、大学院農学研究科 |
| カリフォルニア大学デービス校<br>カリフォルニア大学理事会 | アメリカ合衆国 | 2011年２月１日 | － |
| 誠信女子大学 | 大韓民国 | 2011年２月21日 | － |
| セントピーターズバーグ大学 | アメリカ合衆国 | 2011年２月28日 | － |
| リモージュ大学 | フランス共和国 | 2011年３月14日 | 工学部、大学院工学研究科 |
| 北京外国語大学 | 中華人民共和国 | 2011年３月29日 | － |
| 武漢理工大学 | 中華人民共和国 | 2011年５月30日 | 工学部、大学院工学研究科 |
| 河南農業大学 | 中華人民共和国 | 2011年８月15日 | 農学部、大学院農学研究科 |
| 長春理工大学 | 中華人民共和国 | 2012年１月16日 | 工学部、大学院工学研究科 |
| 浙江工商大学 | 中華人民共和国 | 2012年５月７日 | 農学部、大学院農学研究科 |
| 天津理工大学 | 中華人民共和国 | 2012年10月25日 | 工学部、大学院工学研究科 |
| カリフォルニア州立大学フラトン校 | アメリカ合衆国 | 2012年11月９日 | － |
| パリ電子電気工学技術高等学院 | フランス共和国 | 2012年11月19日 | 工学部、大学院工学研究科 |
| ガジャマダ大学 | インドネシア共和国 | 2013年１月31日 | － |
| ディポネゴロ大学 | インドネシア共和国 | 2013年２月４日 | 農学部、大学院農学研究科 |
| 州立ロンドリーナ大学 | ブラジル連邦共和国 | 2013年３月11日 | 農学部、大学院農学研究科 |
| 国立嘉義大学 | 台湾 | 2013年４月25日 | － |
| 高等機械大学院大学 | フランス共和国 | 2013年５月24日 | 工学部、大学院工学研究科 |
| ガイゼンハイム大学 | ドイツ連邦共和国 | 2013年７月15日 | 農学部、大学院農学研究科 |

## ●部局間協定〔13カ国・地域　24機関〕

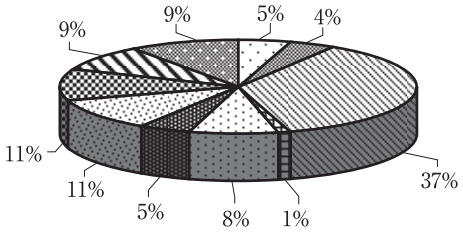
| 部局名 | 機関名 | 国・地域名 | 部局間協定締結年月日 |
|---|---|---|---|
| 教育学部 | 清州大学人文学部 | 大韓民国 | 2001年７月９日 |
| 教育学部 | クライストチャーチ・ポリテクニック工科大学 | ニュージーランド | 2002年１月23日 |
| 教育学部、大学院教育学研究科 | 江西師範大学国際教育学院 | 中華人民共和国 | 2005年２月25日 |
| 法学部、大学院法学研究科 | 上海社会科学院法学研究所 | 中華人民共和国 | 1996年９月２日 |
| 法学部、大学院法学研究科 | 華東政治法律大学 | 中華人民共和国 | 1996年９月５日 |
| 経済学部、大学院経済学研究科 | ボン＝ライン＝ズィーク大学経済学部 | ドイツ連邦共和国 | 2000年12月15日 |
| 医学部 | カルガリ大学医学部 | カナダ | 1989年７月31日 |
| 医学部 | 中国医科大学 | 中華人民共和国 | 1997年８月28日 |
| 医学部 | 河北医科大学 | 中華人民共和国 | 2001年11月27日 |
| 医学部 | ブルネイ・ダルサラーム国保健省 | ブルネイ・ダルサラーム国 | 2009年12月５日 |
| 工学部、大学院工学研究科 | ブリティッシュコロンビア大学応用科学部 | カナダ | 2001年７月31日 |
| 工学部、大学院工学研究科 | ボン＝ライン＝ズィーク大学 | ドイツ連邦共和国 | 2002年２月12日 |
| 工学部、大学院工学研究科 | 国立高等精密機械大学院大学 | フランス共和国 | 2009年１月28日 |
| 工学部、大学院工学研究科 | トレド大学 | アメリカ合衆国 | 2009年３月30日 |
| 工学部、大学院工学研究科 | ラップランド応用科学大学 | フィンランド共和国 | 2009年６月１日 |
| 工学部、大学院工学研究科 | 漢陽大学工学部第四群 | 大韓民国 | 2010年４月14日 |
| 工学部、大学院工学研究科 | ハルムスタッド大学情報科学部 | スウェーデン王国 | 2011年４月18日 |
| 工学部、大学院工学研究科 | 北京師範大学化学学院 | 中華人民共和国 | 2012年３月31日 |
| 工学部、大学院工学研究科 | 北京理工大学生命学院 | 中華人民共和国 | 2012年10月24日 |
| 農学部、大学院農学研究科 | ダッカ大学生物科学部 | バングラデシュ人民共和国 | 1998年12月15日 |
| 農学部、大学院農学研究科 | ミシガン州立大学農学・自然資源学部 | アメリカ合衆国 | 1999年３月22日 |
| 農学部、大学院農学研究科 | ボゴール農業大学農学部、大学院研究科 | インドネシア共和国 | 2000年６月13日 |
| 農学部、大学院農学研究科 | 西オーストラリア大学自然科学・農学部 | オーストラリア連邦 | 2002年３月28日 |
| 農学部、大学院農学研究科 | ブルゴーニュ大学アグロスップ校 | フランス共和国 | 2010年６月１日 |

## ●連携協力協定（３件）

| 協定 | 連携協力機関 | 締結年月日 |
|---|---|---|
| 国際メカトロニクス研究教育機構に関する一般協定 | サボア大学、国立高等精密機械大学院大学、フランシュ・コンテ大学、電気通信大学、東京電機大学、首都大学東京、産業技術大学院大学、高等機械大学院大学、リモージュ大学、コンピエーネ技術大学、三重大学 | 2009年１月30日 |
| 地球ディベロプメントサイエンス国際コンソーシアムの設立に関する一般協定 | グラム・バングラ | 2010年２月16日 |
| 熱帯農業に関するSUIJI（Six University Initiative Japan Indonesia）コンソーシアム協定 | ガジャマダ大学、ボゴール農業大学、ハサヌディン大学、愛媛大学、高知大学 | 2011年３月16日 |

# 平成25年度香川大学国際交流資金実施状況

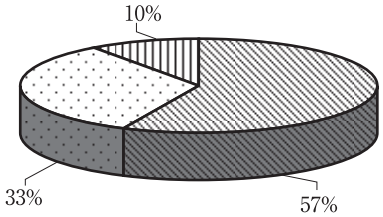
## 各事業実施割合




- 外国人研究者等招へい援助事業
- 外国人留学生奨学援助事業（A）
- 外国人留学生奨学援助事業（B）
- 教職員海外派遣援助事業
- 外国へ留学する学生援助事業
- 国際共同研究事業
- 国際会議開催援助事業
- 国際交流に必要な渉外援助事業
- 本学学生の外国における学会発表・調査研究援助事業
- 交流協定校への短期訪問援助事業

| 事業名 | 実施額（千円） | 事業全体に占める割合 |
|---|---|---|
| 外国人研究者等招へい援助事業 | 550 | 5% |
| 外国人留学生奨学援助事業（A） | 450 | 4% |
| 外国人留学生奨学援助事業（B） | 3,840 | 37% |
| 教職員海外派遣援助事業 | 100 | 1% |
| 外国へ留学する学生援助事業 | 800 | 8% |
| 国際共同研究事業 | 500 | 5% |
| 国際会議開催援助事業 | 1,100 | 11% |
| 国際交流に必要な渉外援助事業 | 1,200 | 11% |
| 本学学生の外国における学会発表・調査研究援助事業 | 900 | 9% |
| 交流協定校への短期訪問援助事業 | 1,000 | 9% |
| 計 | 10,440 | 100% |

## 目的別実施割合




- 学生・留学生に対する援助
- 研究者に対する援助
- 学生・研究者に対する援助

| 事業 | 実施額（千円） | 事業全体に占める割合 |
|---|---|---|
| 学生・留学生に対する援助 | 5,990 | 57% |
| 研究者に対する援助 | 3,450 | 33% |
| 学生・研究者に対する援助 | 1,000 | 10% |
| 計 | 10,440 | 100% |

# 平成25年度インターナショナルオフィス年間行事

| 月　　日 | 行　　事 |
|---|---|
| 4月1日㈪ | 本学とコロラド州立大学との学生交流プログラムに関する実施細則締結 |
| 4月6日㈯ | 外国人留学生ガイダンス |
| 4月12日㈮ | 春期新入留学生ガイダンス・歓迎会（情報交換会） |
| 4月25日㈭ | 本学と国立嘉義大学との間の学術交流協定書等締結 |
| 5月1日㈬ | サボア大学関係者と両校の国際交流に関する意見交換会 |
| 5月19日㈰ | 本学工学部及び大学院工学研究科とボン＝ライン＝ズィーク大学との学術交流協定等再締結、学生交流プログラムに関する実施細則締結 |
| 5月20日㈪ | 第1回　4＆1プロジェクトチーム会議 |
| 5月24日㈮ | 香川県留学生等国際交流連絡協議会運営委員会 |
| 5月24日㈮ | 本学と高等機械大学院大学との学術交流協定等締結 |
| 5月25日㈯～26日㈰ | 海外留学フェア（ベトナム） |
| 5月31日㈮ | 外国人学生かがわホームビジット第1期ガイダンス |
| 6月17日㈪ | 第2回　4＆1プロジェクトチーム会議 |
| 6月13日㈬・27日㈬ | 留学生のための就職支援サービス登録会 |
| 6月21日㈮ | 外国人学生かがわホームビジット第1期対面式 |
| 6月25日㈫ | 香川県留学生等国際交流連絡協議会総会 |
| 6月30日㈰ | 外国人学生かがわホームビジット第1期1日目 |
| 7月1日㈪～12日㈮ | 第19回日本語語学研修プログラム（2W） |
| 7月4日㈭ | 中小企業の魅力研究セミナー＆交流会 |
| 7月7日㈰ | 外国人学生かがわホームビジット第1期2日目 |
| 7月15日㈪ | 本学とガイゼンハイム大学との間の学術交流協定書等締結 |
| 7月16日㈫ | 第3回　4＆1プロジェクトチーム会議 |
| 7月17日㈫ | 留学生と青年経営者の集い |
| 7月26日㈮ | 外国人留学生等の入国・在留に関する実務懇談会（香川県留学生等国際交流連絡協議会主催） |
| 8月6日㈪ | 企業見学会（香川県留学生等国際交流連絡協議会主催） |
| 8月6日㈫ | 「本島・粟島国際交流プロジェクト」対岸の詫間町内小学校の子どもたちとの国際交流 |
| 8月9日㈮ | 香川大学帰国留学生ネットワーク中国支部第3回総会 |
| 9月24日㈫～25日㈬ | 平成25年度第1回外国人留学生課外教育行事 |
| 9月25日㈬ | 香川大学・ブルネイ間共同研究「糖尿病・肥満の比較研究と国際貢献」第1回研究会 |
| 10月1日㈪ | 「本島・粟島国際交流プロジェクト」留学生が粟島でボランティア活動 |
| 10月1日㈪ | 2013年度短期（6ヶ月）日本語プログラム開講式 |
| 10月3日㈭ | 第4回　4＆1プロジェクトチーム会議 |
| 10月5日㈯ | 外国人留学生ガイダンス・情報交換会 |
| 10月8日㈪ | ブルネイ・ダルサラーム大学との研究ミーティング |
| 10月8日㈪ | 2013年度秋期日本語研修コース開講式 |
| 10月15日㈪ | 秋期新入留学生ガイダンス、チューター説明会・情報交換会 |
| 11月1日㈮ | 留学生就職活動準備セミナー |
| 11月6日㈬ | 香川大学・ブルネイ間共同研究「糖尿病・肥満の比較研究と国際貢献」第1回国際セミナー |
| 11月7日㈭ | 本学教育学部と南ボヘミア大学哲学部との学術交流実施細則締結 |
| 11月8日㈮ | 外国人学生かがわホームビジット第2期ガイダンス |
| 11月10日㈯ | 香川大学帰国留学生ネットワークタイ支部設立総会 |
| 11月22日㈮ | 第5回　4＆1プロジェクトチーム会議 |
| 11月20日㈬ | 平成25年度国際研究支援センター研究会シリーズ第1回 |
| 11月25日㈪～29日㈮ | インターナショナルウィーク |
| 11月29日㈮ | 外国人学生かがわホームビジット第2期対面式 |
| 12月6日㈮ | 学長主催外国人留学生交歓会 |
| 12月8日㈰ | 外国人学生かがわホームビジット第2期1日目 |
| 12月15日㈰ | 外国人学生かがわホームビジット第2期2日目 |
| 12月17日㈫ | 香川大学・ブルネイ間共同研究「糖尿病・肥満の比較研究と国際貢献」第2回国際セミナー |
| 12月23日㈪ | 外国人留学生就職活動準備セミナー（バスツアー） |
| 12月25日㈬ | 第10回外国人留学生作文コンテスト審査委員会 |
| 1月8日㈬～23日㈭ | 第20回日本語語学研修プログラム（2W） |
| 12月25日㈬ | 留学生就職活動支援セミナー |
| 1月17日㈮ | 香川県留学生等国際交流連絡協議会　シンポジウム |
| 1月24日㈮ | 内閣府青年国際交流事業グローバルリーダー育成事業ディスカッション交流会 |
| 2月4日㈫ | 南ソウル大学と愛媛大学学生との交流会 |
| 2月14日㈮ | 企業見学会（香川県留学生等国際交流連絡協議会主催） |
| 2月17日㈪ | 百十四銀行就職セミナー |
| 2月24日㈪ | 平成25年度第2回外国人留学生課外教育行事 |
| 2月26日㈬ | 第6回　4＆1プロジェクトチーム会議 |
| 2月27日㈭ | 平成25年度国際研究支援センター研究会シリーズ第2回 |
| 2月22日㈮ | 外国人留学生及びチューター等意見交換・反省会 |
| 3月3日㈪ | 本学工学部及び大学院工学研究科とチェンマイ大学工学部及び大学院工学研究科との学術交流協定に関する実施細則再締結 |
| 3月14日㈮ | 独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）平成26年度海外留学支援制度12プログラム採択 |
| 3月20日㈭ | チェンマイ大学にて香川大学連携オフィスの開所式 |
| 3月28日㈮ | 本学とチェンマイ大学との学術交流に関する一般的覚書に基づく学生の交流に関する実施細則締結 |

## 2013年度学長等表敬訪問

4月22日　タイ王国大使館（タイ）

タイ公使参事官のアリニー・タナワットサッチャセーリー氏が本学理事・インターナショナルオフィス長を表敬訪問。

5月1日　サボア大学（フランス）

Laurent Foulloy 教授が本学理事・インターナショナルオフィス長を表敬訪問

本学とサボア大学は、2000年に学術交流協定を締結後、本学との交流が継続的に行われている。

5月27日　コロラド州立大学（アメリカ）

日本語を副専攻としている学生7名及び教員1名が本学理事・インターナショナルオフィス長を表敬訪問

7名の学生は、本学教育学部において「アジア・アメリカ異文化交流短期受入プログラム」に参加。本学とコロラド州立大学は、2002年に学術交流協定を締結後、本学との交流が継続的に行われている。

7月2日　日本語語学研修プログラム研修生（韓国、台湾）

本学留学生センター主催「第19回日本語語学研修プログラム」研修生が本学理事・インターナショナルオフィス長を表敬訪問

韓国・清州大学の学生4名、台湾・真理大学の学生2名の計6名の学生が参加。

8月5日　国立嘉義大学（台湾）

邱義源学長他4名の訪問団が本学学長を表敬訪問

本学と国立嘉義大学は2013年4月に学術交流協定と学生交流に関する実施細則を締結。工学部を中心に活発な交流が期待される。

8月20日　ショートステイプログラムの学生（タイ、インドネシア、中国、アメリカ、ブラジル、トルコ）

本学農学部にショートステイする外国人学生21名が本学理事・インターナショナルオフィス長を表敬訪問

平成25年度日本学生支援機構留学生交流支援制度（短期受入れ）に採択となった本学の協定校等から参加した学生であり、4週間、本学農学部の「食品の安全・機能解析教育に関する東南アジア等の大学間体験学習型プログラム」や企業でのインターンシップに参加。

8月22日　SUIJIの学生（インドネシア）

ガジャマダ大学、ボゴール農業大学、ハサヌディン大学に在籍する外国人学生6名と愛媛大学、高知大学及び本学の学生9名が本学理事・インターナショナルオフィス長を表敬訪問

2011年に日本とインドネシアの6大学（愛媛大学、香川大学、高知大学、ガジャマダ大学、ボゴール農業大学、ハサヌディン大学）が熱帯農業に関するSUIJI　（Six University Initiative Japan Indonesia）コンソーシアム協定書を締結。

学生15名は、2013年度から実施する「日本・インドネシアの農山漁村で展開する6大学協働サービスラーニング・プログラム　Six University Initiative Japan Indonesia Service Learning Program（略称　SUIJI-SLP）」の19日間のベーシックサービスラーニング・プログラム（香川サイト）に参加。

10月30日　チェンマイ大学（タイ）

Niwes Nantachit学長他6名の訪問団が本学学長を表敬訪問

2014年度開催予定の「第5回チェンマイ大学・香川大学合同シンポジウム」の計画や、両大学の学生・研究者の更なる交流の発展について議論、意見交換を行う。チェンマイ大学とは1990年に農学部を中心に学術交流協定を締結して以来活発な学生・研究者交流を展開しており、本学の海外教育研究交流拠点の一つである。

12月17日　在ブルネイ日本国大使館（ブルネイ）

在ブルネイ日本国大使館菅沼健一特命全権大使が本学学長を表敬訪問

本学医学部徳田雅明教授の「ブルネイ・ダルサラーム国と日本国における糖尿病及び肥満の比較研究を通じた国際貢献」が日本学術振興会の二国間交流事業共同研究オープンパートナーシップ事業に採択されたことに伴い開催した第2回国際セミナーにおける基調講演のために招へい。

1月28日　ブルネイ・ダルサラーム大学、ブルネイ・ダルサラーム国教育省（ブルネイ）

ブルネイ・ダルサラーム大学医学部のDr. Nik Anni Afiqah binti Haji Mohammad Tuah氏他3名、ブルネイ・ダルサラーム国教育省のHajah Jamilah binti Haji Ali氏からなる訪問団が、本学副学長・インターナショナルオフィス長を表敬訪問

日本学術振興会の二国間交流事業共同研究プロジェクトの一環として、ブルネイにおける糖尿病・肥満予防に役立つプログラムの導入のために本学を訪問。

3月4日　フランス政府留学局日本支局（フランス）

フランス政府留学局ファビアン・ルディエ日本支局長が本学副学長・インターナショナルオフィス長を表敬訪問

フランスへの留学制度や奨学金等に関する意見交換を実施。

# インターナショナルウィークの開催

インターナショナルオフィス　高　水　　徹

平成25年度も、11月25日㈪からの１週間を香川大学インターナショナルウィークとして、様々なイベントを実施した。インターナショナルウィークの開催は今年度が２度目であり、留学の促進や国際交流の活性化を意図した行事である。インターナショナルオフィスとしては、25日㈪にはザーイド大学ドバイ校教養学部助教のリマ・サバン氏による講演会「ドバイの大学生とドバイから見た日本」、27日㈬には海外留学フェアを実施した他、各学部においても関連行事として留学説明会等を実施した。

１．インターナショナルウィークの概要

まず、10月１日㈫～11月29日㈮には、研究交流棟１階及び４階オープンスペースにおいて、パネル展示を行った。内容は、学術交流協定校の紹介や海外留学・研修プログラム、インターナショナルオフィス、各学部の取り組みの紹介である。これらのパネルは、普段学生の目につきにくいこともあり、期間中の平日、いつでも閲覧可能にした。

11月25日㈪の16：20～17：50、授業時間を用いて、教育学部621教室にて、講演会「ドバイの大学生とドバイからみた日本」を実施した。講演者は、UAE・ザーイド大学ドバイ校教養学部助教のリマ・サバン氏である。中東の国々は、日本とつながりが深い側面があるにもかかわらず、学生にはあまりそのような認識がない。同地域の中心的存在であるアラブ首長国連邦の大学生の様子や、同国の人々から日本がどのように見られているのかを中心とした内容で、学生にとっては外からの視点を学ぶ機会となった。

11月27日㈬13：00～16：30、研究交流棟５階研究者交流スペースにて、海外留学フェアを実施した。第１部（13：00～15：00）は帰国学生による報告会で、交換留学や短期研修、インターンシップなどの各種プログラムで留学した学生による報告会であった。これらの学生の留学先は、カナダ・オーストラリア・韓国・フィンランド・タイ・アメリカ・ドイツであった。様々なタイプや留学先の体験談に触れることで、留学準備や進路などについてのイメージを膨らませてもらうことを意図している。第２部（15：00～16：30）では、「海外留学プログラムの紹介」を実施した。これは、インターナショナルオフィス作成の冊子等に基づき、海外留学プログラムや奨学金の説明を行うもので、具体的な情報提供である。

当日には、帰国学生による海外留学質問ブースも設置され、興味をもった学生たちが質問のため訪れていた。

２．各部局との連携による行事

教育学部においては、「留学に関する説明会」が実施された。同学部と関わりの深い、チェンマイ大学（タイ）、クライストチャーチ・ポリテクニック工科大学（ニュージーランド）、江西師範大学（中国）の紹介と短期派遣に関する説明が行われた。

医学部は、12月12日㈬、研究交流棟５階にて、「ブルネイ・ダルサラーム大学との交流の集い」を実施した。ブルネイ・ダルサラーム大学（UBD）の教員、医学部学生８名、香川大学教員、学

生などが集まり、ブルネイ・ダルサラーム国の紹介、UBDとの交流の現状および将来展望、などを語り合うもので、学生のポスター発表も含まれていた。

工学部は、11月2日㈯、工学部教員や、海外の協定校に留学・訪問した経験のある学生が工学部の国際交流活動についての情報提供を行い、問い合わせに応じた。

農学部は、11月1日㈮、留学説明会を実施し、海外留学・研修プログラムの情報提供を行った。

これら行事は、必ずしも上記ウィークの期間中でないものも含まれているが、オフィスと各部局が連携し、学生により効果的な情報提供を行う試みとして、同じ枠組みに含めている。

## FD･SD ワークショップの実施

平成25年８月５日㈪、講師にジェイアイ傷害火災保険㈱リスクソリューション担当部長城戸克斉氏をお招きし、海外へ渡航する学生の指導教員及び事務担当者を対象とした「危機管理セミナー」を開催した。板野オフィス長の開会挨拶の後、城戸氏より、引率中または日本大気中に海外で危機事象が発生した場合の行動や心構え、海外で発生しやすい事件や事故をいかに防ぐべきか、などについてご講演いただいた。

講演に引き続いての質疑応答では、具体的な保険の加入手続きや内容、有事が発生した際の注意事項等について、活発な意見交換がなされた。

# 平成25年度学長主催外国人留学生交歓会を開催

平成25年11月29日㈮、外国人留学生、教職員及びチューター等日本人学生や、地域や国際交流団体の方々との親睦を深めるため、学長主催による外国人留学生交歓会をホテルパールガーデンにおいて開催し、約260名が参加した。

民族衣装を身にまとった工学研究科１年　Tamzeed Al Alam（タムジード　アル　アラム）さん（バングラディシュ）、経済学部特別聴講学生　忻　以庭（キン　イテイ）さん（台湾）が司会進行を行い、長尾学長の挨拶に続き、留学生のための支援活動を行ってくださる地域団体、ボランティアの方々へ、学長から感謝状及び記念品が贈呈され、留学生代表の経済学部３年　斉　鋭（サイ　エイ）さん（中国）の挨拶、板野国際戦略・地域連携担当副学長による乾杯の音頭で開始された。タイからの留学生によるダンス、インドネシアからの留学生による歌とダンスが披露され、大いに盛り上がった。

最後にロン留学生センター長による挨拶で交歓会を締めくくった。これを機に本学の留学生達が、さらなる交流の輪を広げ、日本での留学生活を充実したものにしてくれることを願う。

# 香川大学帰国留学生ネットワーク中国支部第３回総会開催

平成25年７月26日㈮、香川大学帰国留学生ネットワーク中国支部第３回総会を福建省厦門市内のホテルで開催した。

総会には本学からは長尾学長、ロンインターナショナル副オフィス長、早川農学部長に加えて、帰国留学生の元指導教員らが出席し、中国からは30名の元留学生とその家族が参加した。

帰国留学生ネットワーク中国支部は香川大学を卒業、修了した帰国留学生相互の親睦・情報交換を図るとともに、本学の国際交流の推進に寄与することを目的として、2009年６月に中国北京で設立した。

総会では、現役員等が第２期の総括を行った後、新たに第３期役員の選出が行われた。また、学長と教員から近況報告が述べられた後、元留学生からは在学中に受けた指導への感謝や近況報告、卒業後の研究成果、今後の香川大学への期待などが寄せられ、本学教職員と交流を深めることができた。

今後、元留学生との連携協力と、本学の国際交流の推進が期待される。

## 民間宿舎借り上げ事業

慢性的な留学生宿舎の不足を解消するため、平成25年度より香川大学花園寮、コーポ西町南の２棟の民間宿舎の借り上げを開始した。

香川大学花園寮は、民間企業が独身寮として利用していた物件を借り上げたもので、幸町キャンパスから2.4 km に位置し、15部屋の居室と入居者が共有で利用する談話室、シャワールーム、洗濯室を有している。日ごろの国際交流を目的とし、15部屋のうち２部屋には日本人学生が入居した。

コーポ西町南は幸町キャンパスから１ km に位置し、６部屋の居室を有した民間のコーポを借り上げたもので、各居室にはキッチン、シャワー、トイレなどの設備のほか、ベッド、机、冷蔵庫等の備品を備えている。

平成25年８月３日㈯には、香川大学花園寮の入居学生と寮近隣の地域の方々との交流を図るため、また、日本文化を体験することを目的として、「花園寮交流会」（そうめん流し）を開催した。交流会当日は天気にも恵まれ、寮生らは、そうめん流しの竹を設置したり、稲荷ずしを作ったりして、地域の方々をお迎えする準備に励んだ。準備が整ったところで寮生代表が地域の方々をご案内し、花園町自治会長様を始めとする地域の方々にご参加いただいた。始終和やかな雰囲気で、最後はスイカ割りで盛り上がった。

平成25年12月８日㈰には、入居学生の発案により、水餃子を作り近隣の地域の方々に振る舞った。中国出身の学生が他国出身の学生に教えながら手作りした水餃子は、日本の水餃子とは違うもので、初めて食する地域の方々にも喜んでいただき、異文化について皆で語り合う大変有意義な交流会となった。

# 大学の世界展開力強化事業（SUIJI）

SUIJI（Six University Initiative Japan-Indonesia）は、愛媛大学、香川大学、高知大学とインドネシアのガジャマダ大学、ボゴール農業大学、ハサヌディン大学の６大学が、平成23年３月に設立した熱帯農業に関して連携して共同研究・共同教育を進めていくためのコンソーシアムで、平成24年度には、文部科学省の「大学の世界展開力強化事業」として「日本とインドネシアの農山漁村で展開する６大学協働サービスラーニング・プログラム（SUIJI-SLP）」が採択された。

平成25年度の活動は、８月29日㈭～９月24日㈫に「四国の農山漁村で日本・インドネシア６大学協働サービスラーニング・プログラム」として、インドネシア人学生33人、日本人学生40人）が３週間にわたって、過疎化・高齢化の進む四国の農山漁村に共に滞在し、現実の課題に取り組みながら学ぶサービスラーニング・プログラムを実施した。香川大学では香川県小豆島町で、インドネシア人学生６人と日本人学生９人が、地域課題の解決に取り組む地域貢献を通じて、未来社会の持続的な発展に貢献するサーバント・リーダーとしての素養を身につけるために学んだ。

平成25年８月28日には、第３回SUIJIセミナーが、高知県南国市サザンシティホテルにおいて３日間開催され、香川大学からは、長尾学長、板野理事、早川農学部長、ロン　リム留学生センター長らが参加した。第３回SUIJIセミナーは、「大学は地域とどう関わるのか（地域協働・サービスラーニング）」をテーマとし６大学の連携の下で、熱帯における持続的農業に関する教育研究を協働で進めることを目的に、学長フォーラム、研究者フォーラム、学生フォーラムに分かれ、教育研究成果の公表と大学間での情報交流が行われた。学長フォーラムでは、６大学の高等教育機関による社会協働教育の実践とSUIJIサービスラーニングの今後の方向性について、発表、意見交換を行い、研究者フォーラムでは、各大学の教員、大学院生が熱帯における農業に関する研究発表を行った。学生フォーラムでは、SUIJIサービスラーニング・プログラムに参加の学生が、中間報告としての成果と後半の活動目標について発表した。SUIJIセミナーの最後には、今後の方向性について議論の成果をとりまとめた「高知宣言」が採択され、６大学の学長が署名をした。

海外サービスラーニングとしては、日本学生57人（香川大学生18人）、インドネシア学生63人が参加し平成26年２月23日㈰から約３週間にわたりインドネシアの西ジャワ州ボゴール県、中ジャワ州トゥガル県、ジョグジャカルタ特別州バントゥル県及びグヌン・キドゥル県、南スラウェシ州マカッサル市スプルモンデ諸島とタナ・トラジャ県の５か所の農山漁村に共に滞在し、それぞれの地域の可能性の発見と、課題の発掘及び解決策を見出すことを目的とした地域貢献活動に取り組んだ。日本人学生は３月16日㈰に帰国し、翌日に実習の成果発表を行った。

# 第５回チェンマイ大学・香川大学合同シンポジウムの開催準備状況

インターナショナルオフィス　細　田　尚　美

香川大学・チェンマイ大学合同シンポジムの開催については、2008年10月に香川大学において開催された第２回の同シンポジウムにおいて、開催は２年毎にすること、両大学が交代で主催することが決定した。これにより、第５回合同シンポジウムは2012年に香川大学で開催することが決まっている。

第５回合同シンポジウムの準備は、平成24年12月から始められ、平成25年度には開催準備を行う組織委員会メンバー（下記リスト参照）が選ばれた。委員長はインターナショナルオフィス委員の高木由美子教授（教育学部）が務めることが決まった。チェンマイ大学側では、プログラム委員会メンバーが選ばれ、Sermkiat　Jomjunyong 副学長が代表を務めることが決まった。平成25年度には、両大学間のテレビ会議が開催され、第５回合同シンポジウムは、①平成26年９月10日㈫～12日㈭の３日間に開催すること、②メインテーマは第４回の Healthy Aging and Sustainable Society を継続すること、③下記の５つのセッションを設けること、④学生の交流を重視し、特に本学の学生の参加人数を増やすこと、⑤希望者はチェンマイ大学の学術雑誌に口頭発表内容を掲載できるようにすること、⑥地元の行政や企業との連携を重視すること、などが決められた。

【香川大学組織委員会メンバー】

**• KU Chair**

・Professor Seigo Nagao, M. D. President of Kagawa University

**• KU Steering Committees**

・Steering Committee Chair, Professor Dr. Toshifumi Itano, Vice President

・Professor Dr. Shin-ichi Yamagami, Dean of the Faculty of Education

・Professor Dr. Youichi Yamamoto, Dean of the Faculty of Law

・Professor Dr. Takuyuki Ohno, Dean of the Faculty of Economics

・Professor Dr. Katsumi Imaida, Dean of the Faculty of Medicine

・Professor Dr. Shunsuke Nakanishi, Dean of the Faculty of Engineering

・Professor Dr. Ikuo Kataoka, Dean of the Faculty of Agriculture

・Professor Dr. Hiroaki Itakura, Dean of the Graduate School of Management

・Professor Dr. Junko Shibata, Dean of the Graduate School of Law

**• KU Organizing Committees**

・Organizing Committee Chair, Professor Dr. Yumiko Takagi, Faculty of Education

・Assistant Professor Dr. Naomi Hosoda, International Office

・Professor Dr. Lrong Lim, International Office

・Professor Dr. Ravindra R. Ranade, Faculty of Economics

・Professor Dr. Hideyuki Sawada, Faculty of Engineering

・Professor Dr. Masaaki Tokuda, Faculty of Medicine

・Professor Dr. Hisashi Kato, Faculty of Agriculture

・Assistant Professor Toru Takamizu, International Office
・Assistant Professor Mika Shioi, International Office

【チェンマイ大学プログラム委員会メンバー】

**• CMU Chair**

・President Associate Professor Niwes Nantachit, M.D.

**• CMU Steering Committees / CMU Organizing committees**

・Vice President for Research and Academic Services Associate, Professor Dr. Sermkiat Jomjunyong
・Assistant President for Research and Academic Service, Associate Professor Dr. Avorn Opatpatanakit
・Deputy Dean, Faculty of Medicine, Professor Dr. Kom Sukontason, M.D.
・Deputy Dean, Faculty of Agriculture, Professor Dr. Sanchai Jaturasitha
・Deputy Dean, Faculty of Nursing, Associate Professor Dr. Punpilai Sriaraporn
・Deputy Dean, Faculty of Science, Associate Professor Dr. Supab Choopun
・Deputy Dean, Faculty of Engineering, Associate Professor Dr. Wassanai Wattanutchariya
・Deputy Dean, Faculty of Economics, Associate Professor Dr. Kanchana Chokethaworn
・Deputy Dean, Faculty of Agro-Industry, Assistant Professor Dr. Sujinda Sriwattana
・Deputy Dean, Faculty of Humanities, Assistant Professor Surachet Kradtap
・Deputy Dean, Faculty of Social Sciences, Assistant Professor Liwa Pardthaisong-Chaipanich
・Director of RCSD, Faculty of Social Sciences, Dr. Chayan Vaddhanaphuti
・Deputy Dean, Faculty of Business Administration, Dr. Narumon Kimpakorn
・Faculty of Science, Professor Saisamorn Lumyong
・Faculty of Engineering, Associate Professor Dr. Nipon Theera-Umpon
・Faculty of Agriculture, Assistant Professor Dr. Daruni Naphrom
・Head, Japanese Studies Center, Faculty of Humanities, Lect. Saranya Kongjit
・Director, Research Administration Center, Associate Professor Dr. Komgrit Leksakul
・Secretary to Director, Research Administration Center, Mr. Thammanoon Noumanong
・Coordinator, Research Administration Center, Ms. Priraya Rithaporn

【セッションならびにセッション・チェア】

**Session 1：Social Sciences and Humanities : Social Environment Studies for Sustainability**

・KU : Prof. Yumiko Takagi, Faculty of Education
・CMU : Lecturer Saranya Kongjit, Faculty of Humanities

**Session 2：Economics and Business : Social Economic and Business Studies for Sustainability**

・KU : Prof. Ravindra R. Ranade, Faculty of Economics
・CMU : Dr. Narumon Kimpakorn, Faculty of Business Administration

**Session 3：Medicine and Nursing : Aging and Lifestyle Related Diseases**

・KU : Prof. Masaaki Tokuda, Faculty of Medicine

・CMU : Associate Professor Prapan Jutavijitum, M.D, Faculty of Medicine

**Session 4：Engineering : Engineering Aspects for Sustainable Development**

・KU : Prof. Hideyuki Sawada Faculty of Engineering

・CMU : Assistant Professor Dr. Sansanee Ueapunwiriyakul, Faculty of Engineering

**Session 5：Agriculture : Agriculture and Biotechnology**

・KU : Prof. Hisashi Kato, Faculty of Agriculture

・CMU : Assistant Professor Dr. Daruni Naphrom, Faculty of Agriculture

# 平成25年国際研究支援センター研究会シリーズ（第１～２回）の開催

インターナショナルオフィス　細　田　尚　美

国際研究支援センターでは平成23年度から、香川大学における国際的な研究活動推進のための研究会シリーズを年に数回開催することとした。研究会は、国際的な研究を実施している／実施を希望している教員らの報告を聞き、参加者の間で活発な議論を展開するとともに、それぞれの研究の発展へとつなげることを目的としている。いずれの研究会も、複数キャンパスを遠隔会議システムでつないで実施し、部局間の研究交流の一端も担った。

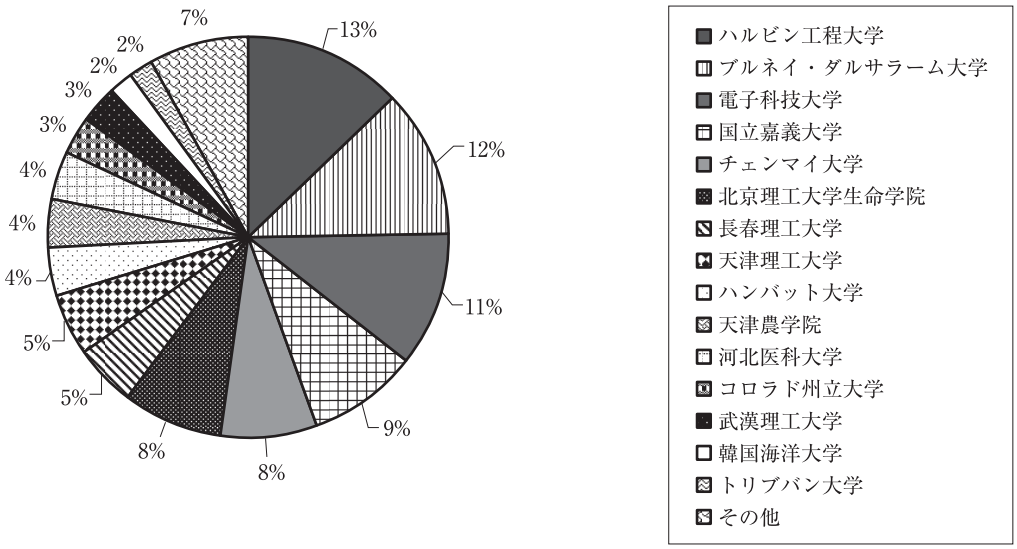
○第１回「外国人家事労働者の雇用と家族関係の変容－アラブ首長国連邦の経験から－」〔平成25年11月20日㈬〕

アラブ首長国連邦ザーイド大学助教 Dr. Rima Sabban 氏が家事労働の外部化について、同国の経験からその社会的影響を批判的に論じた。アラブ首長国連邦では経済発展にともない外国人家事労働者が急増したが、その結果、伝統的な家族制度が急激な変化にさらされ、一部では家族としての機能が失われていると指摘した。Dr. Rima Sabban 氏は、中東湾岸諸国における外国人家事労働者に関する研究における第一人者で、このたび日本学術振興会外国人研究者招へい事業の支援により約１ヶ月本学に滞在して研究活動を行った。研究会には、経済学部、教育学部、大学教育開発センターなどから16名が参加した。

○第２回「東南アジア産の植物の生物活性物質を利用する医薬・農薬の研究開発と早生樹のバイオマス利用」〔平成26年２月27日㈭〕

東南アジアの熱帯亜熱帯産の多種多様な植物・樹木（ジャトロファ等）あるいは植林されている早生樹（ファルカタ等）からの抗酸化性等の生物活性を有する物質に関する研究プロジェクトの構想を報告した。報告者は香川大学農学部・片山健至教授(代表)、同・川浪康弘教授(副代表)、同・加藤尚教授、同・鈴木利貞准教授、ならびに医学部・徳田雅明教授の計５名である。プロジェクトでは、活性物質と相互作用する酵素・受容体の構造解析、活性物質の誘導体化による構造活性相関研究を行い、新規な抗がん剤や抗菌剤など医薬、農薬の研究開発を行うことを発表した。また、その早生樹の廃材や樹皮等の木質バイオマスとして液化やプラスティック化による高度利用を図る計画についても述べた。本プロジェクトは、農学部の応用生命化学研究センターと、医学部・教育学部、香川県の研究機関、香川県の企業とそのインドネシアの関連会社とが連携して行うことになる。

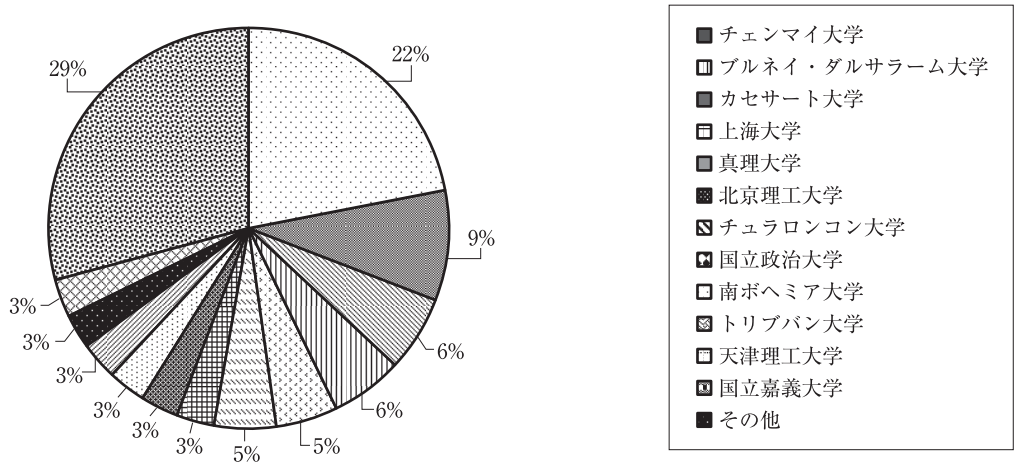
# 学術交流協定締結校との交流状況（受け入れ）




| 学術交流協定締結校からの受け入れ事業 | 件数 |
|---|---|
| ハルビン工程大学 | 14 |
| ブルネイ・ダルサラーム大学 | 13 |
| 電子科技大学 | 12 |
| 国立嘉義大学 | 10 |
| チェンマイ大学 | 8 |
| 北京理工大学生命学院 | 8 |
| 長春理工大学 | 5 |
| 天津理工大学 | 5 |
| ハンバット大学 | 4 |
| 天津農学院 | 4 |
| 河北医科大学 | 4 |
| コロラド州立大学 | 3 |
| 武漢理工大学 | 3 |

| 学術交流協定締結校からの受け入れ事業 | 件数 |
|---|---|
| 韓国海洋大学 | 2 |
| トリブバン大学 | 2 |
| サボア大学 | 1 |
| 中国海洋大学 | 1 |
| アアルト大学化学技術学部 | 1 |
| 真理大学 | 1 |
| シェレバングラ農科大学 | 1 |
| 浙江工商大学 | 1 |
| 清州大学人文学部 | 1 |
| カルガリ大学医学部 | 1 |
| 北京師範大学化学学院 | 1 |

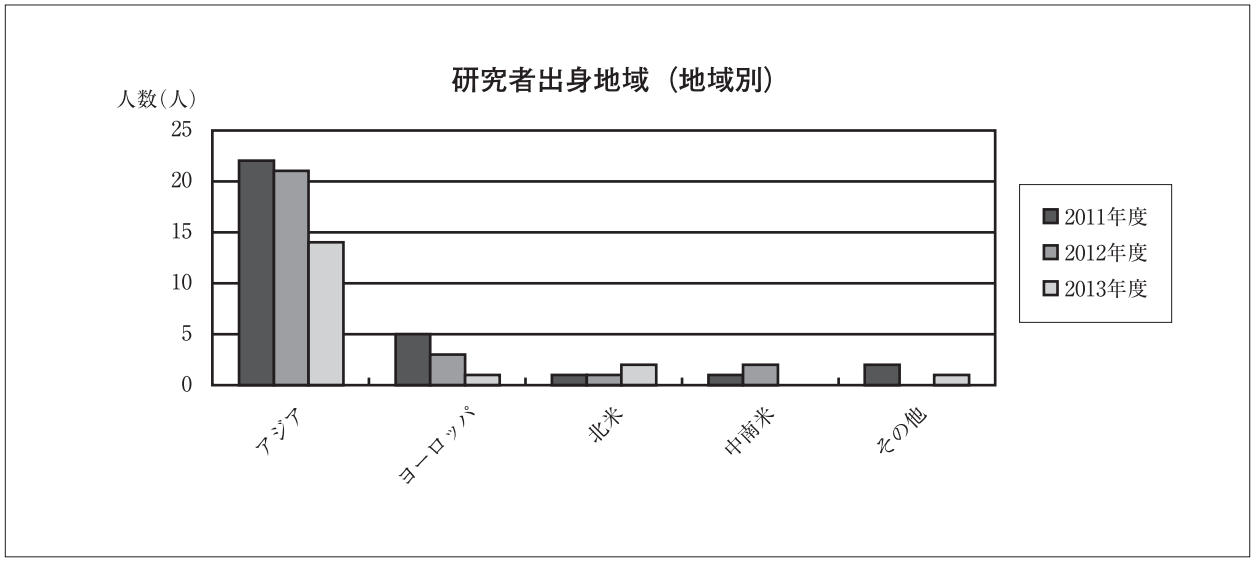
# 学術交流協定締結校との交流状況（派遣）




| 学術交流協定締結校への派遣事業 | 件数 |
|---|---|
| チェンマイ大学 | 32 |
| ブルネイ・ダルサラーム大学 | 13 |
| カセサート大学 | 9 |
| 上海大学 | 8 |
| 真理大学 | 7 |
| 北京理工大学 | 7 |
| チュラロンコン大学 | 5 |
| 国立政治大学 | 4 |
| 南ボヘミア大学 | 4 |
| トリブバン大学 | 4 |
| 天津理工大学 | 4 |
| 国立嘉義大学 | 4 |
| カリフォルニア州立大学フラトン校 | 3 |
| ボゴール農業大学 | 3 |
| ボン＝ライン＝ズィーク大学 | 3 |
| ブリティッシュコロンビア大学 | 3 |
| トレド大学 | 3 |
| サボア大学 | 2 |

| 学術交流協定締結校への派遣事業 | 件数 |
|---|---|
| メチョー大学 | 2 |
| ラインマイン大学（旧ヴィースバーデン大学） | 2 |
| 天津農学院 | 2 |
| 浙江工商大学 | 2 |
| ガジャマダ大学 | 2 |
| クライストチャーチ・ポリテクニック工科大学 | 2 |
| ハルムスタッド大学 | 2 |
| 南京農業大学 | 1 |
| コロラド州立大学 | 1 |
| ハルビン工程大学 | 1 |
| 西北大学 | 1 |
| ハンバット大学 | 1 |
| 北京工業大学 | 1 |
| シェレバングラ農科大学 | 1 |
| セントピーターズバーグ大学 | 1 |
| パリ電子電気高等技術学院 | 1 |
| ディポネゴロ大学 | 1 |
| カルガリー大学 | 1 |

# 外国人研究者等の受け入れ状況




**【地域別】**

（単位：人）

| | アジア | ヨーロッパ | 北米 | 中南米 | その他 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 2011年度 | 22 | 5 | 1 | 1 | 2 | 31 |
| 2012年度 | 21 | 3 | 1 | 2 | 0 | 27 |
| 2013年度 | 14 | 1 | 2 | 0 | 1 | 18 |

**【国　別】**

**アジア**　（単位：人）

| 国名 | 2011年度 | 2012年度 | 2013年度 |
|---|---|---|---|
| インド | 1 | 0 | 0 |
| インドネシア | 2 | 3 | 0 |
| タイ | 7 | 5 | 1 |
| 中国 | 8 | 7 | 5 |
| パキスタン | 1 | 0 | 0 |
| バングラデシュ | 2 | 4 | 4 |
| フィリピン | 0 | 1 | 1 |
| ベトナム | 0 | 1 | 0 |
| マレーシア | 1 | 0 | 1 |
| モンゴル | 0 | 0 | 2 |

**ヨーロッパ**　（単位：人）

| 国名 | 2011年度 | 2012年度 | 2013年度 |
|---|---|---|---|
| スペイン | 1 | 0 | 0 |
| フィンランド | 1 | 1 | 0 |
| ベルギー | 2 | 1 | 1 |
| ポルトガル | 1 | 0 | 0 |
| ルーマニア | 0 | 1 | 0 |

**北米**　（単位：人）

| 国名 | 2011年度 | 2012年度 | 2013年度 |
|---|---|---|---|
| アメリカ | 1 | 1 | 2 |

**中南米**　（単位：人）

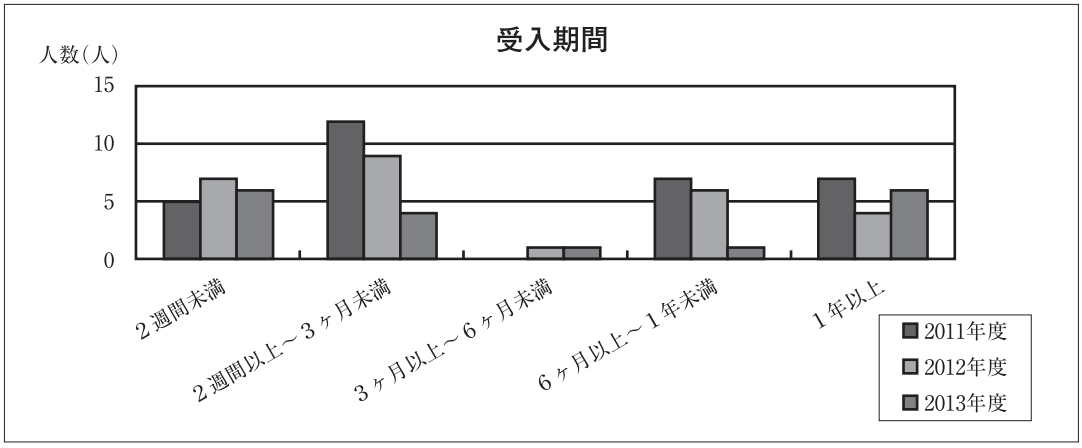
| 国名 | 2011年度 | 2012年度 | 2013年度 |
|---|---|---|---|
| ブラジル | 1 | 2 | 0 |

**アフリカ**　（単位：人）

| 国名 | 2011年度 | 2012年度 | 2013年度 |
|---|---|---|---|
| リベリア | 1 | 0 | 0 |

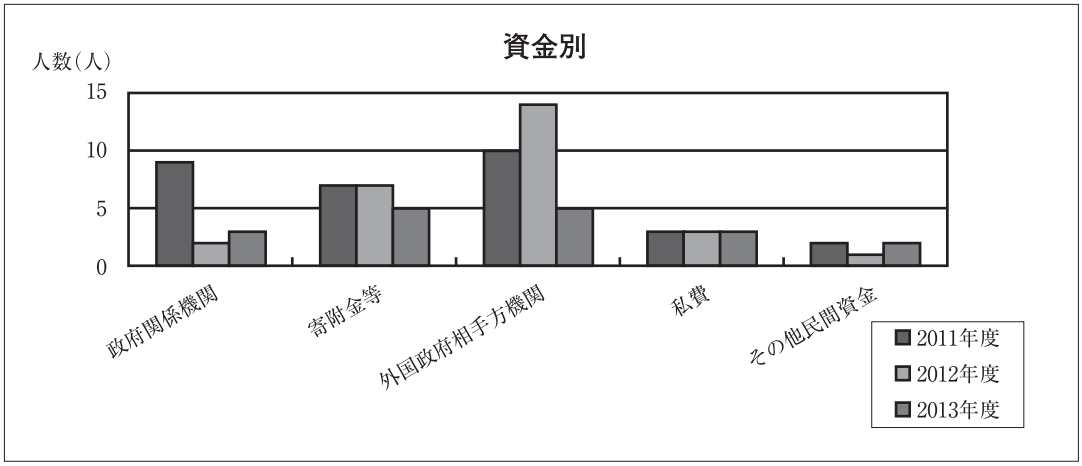
**中東**　（単位：人）

| 国名 | 2011年度 | 2012年度 | 2013年度 |
|---|---|---|---|
| イスラエル | 0 | 0 | 1 |
| オマーン | 1 | 0 | 0 |



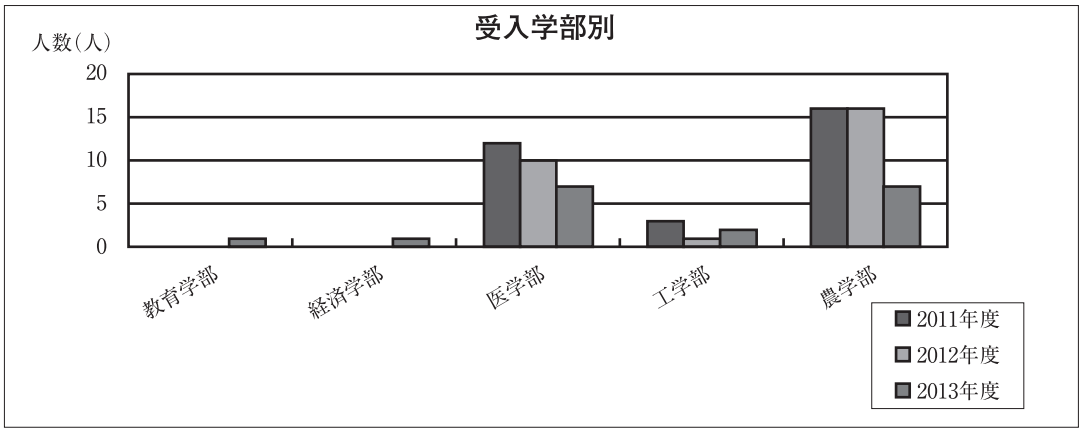

**【受入期間別】** （単位：人）

| 年度 | 2週間未満 | 2週間以上～3ヶ月未満 | 3ヶ月以上～6ヶ月未満 | 6ヶ月以上～1年未満 | 1年以上 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 2011年度 | 5 | 12 | 0 | 7 | 7 | 31 |
| 2012年度 | 7 | 9 | 1 | 6 | 4 | 27 |
| 2013年度 | 6 | 4 | 1 | 1 | 6 | 18 |




**【資金別】** （単位：人）

| 年度 | 政府関係機関 | 寄附金等 | 外国政府相手方機関 | 私費 | その他民間資金 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 2011年度 | 9 | 7 | 10 | 3 | 2 | 31 |
| 2012年度 | 2 | 7 | 14 | 3 | 1 | 27 |
| 2013年度 | 3 | 5 | 5 | 3 | 2 | 18 |




**【受入学部別】** （単位：人）

| 年度 | 教育学部 | 経済学部 | 医学部 | 工学部 | 農学部 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 2011年度 | 0 | 0 | 12 | 3 | 16 | 31 |
| 2012年度 | 0 | 0 | 10 | 1 | 16 | 27 |
| 2013年度 | 1 | 1 | 7 | 2 | 7 | 18 |

# 平成 25 年度国際学会・シンポジウム開催状況

| 学会・シンポ等名称 | 開催期間 | 開催場所 | 招へい外国人研究者 | 主催部局等名 | 担当教員 | 参加者人数 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 2013年 ICME 複合医工学に関する国際会議（The 2013 ICME International Conference on Complex Medical Engineering（CME 2013）） | 2013/5/25～5/28 | 中国北京市 | Prof. James K. Mills University of Toronto, Canada | 工学部 | 郭　書祥（実行委員長） | 150名（21の国と地域） |
| 国際交流研究会（Intercultural research seminar） | 2013/6/28 | 香川大学幸町キャンパス | Masako Beecken 講師 アメリカ、コロラド州立大学 | 教育学部 | 高木由美子 | 30名 |
| 2013年 IEEE メカトロニクスとオートメーションに関する国際会議（The 2013 IEEE International Conference on Mechatronics and Automation） | 2013/8/4～8/7 | かがわ国際会議場 | 1. Dr. Miroslav Krstic, Dr. Rolf Pfeifer, Dr. Rolf Pfeifer, Director, Artificial Intelligence Laboratory, Department of Informatics, University of Zurich, Switzerland<br>2. Prof. Tzyh Jong Tarn, Center for Robotics and Automation Washington University, St. Louis, USA<br>3. Prof. Tianyou Cai, Director of National Research Center for Metallurgical Automation Technology, Professor, Department of Automatic Control, Northeastern University, P.R. China | 工学部 | 郭　書祥（実行委員長）<br>平田　英之（副組織委員長）<br>石原、澤田、鈴木、高橋（組織委員） | 350名（33の国と地域） |
| 第 3 回ジオコミュニケーションセミナー「気候変動の下での河川と災害をめぐるジオコミュニケーション」（The 3 rd Geocommunication Seminar : Geo-Commnication on River System and Disasters under Changing Climate） | 2013/9/7 | 香川大学幸町キャンパス | Prof. Subashisa Dutta（Indian Institute of Technology Guwahati）<br>Dr. Tapas Karmaker（Thaper University） | 教育学部（香川大学新領域・連携研究「新たな水文化・環境構築をめざすジオコミュニケーション学の地域・海外発信」） | 寺尾　徹 | 7 名 |
| 日本フィンランド二国間共同研究（Nano-emulsions and encapsulation for delivering functionality in foods） | 2013/9/26～9/27 | サンポートホール高松 5 階 54会議室 | Riitta Partanen<br>Outi Toikkanen<br>Kaisa Poutanen<br>B.R Bhandari | 農学部 | 吉井　英文 | 65名 |

| 学会・シンポ等名称 | 開催期間 | 開催場所 | 招へい外国人研究者 | 主催部局等名 | 担当教員 | 参加者人数 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 国際交流研究会（Intercultural research seminar） | 2013/10/11 | 香川大学812講義室 | Prof. Anthony T. Tu<br>アメリカ、コロラド州立大学 | 教育学部 | 高木由美子 | 30名 |
| ファイトジーンの可能性と未来Ⅵ（International Phytogene Symposium Ⅵ） | 2013/10/28 | かがわ国際会議場 | Tom Wolpert<br>Adam Bogdanove<br>Manabu Ishitani | 農学部 | 秋光　和也 | 110名程度 |
| 第2回嘉義・香川 e-learning および教育技術に関する合同ワークショップ（The Second Chiayi-Kagawa Workshop on E-learning and Educational Technologies） | 2013/11/25～11/26 | 香川大学（教育学部、医学部、工学部） | Prof. DING, Jyh-Chyuan,<br>Prof. CHEN, Sheng-Mo,<br>Prof. LIN, Ming-Huang,<br>Dr. LIN, Ming-Nan,<br>Prof. HUANG, Kuo-Hung | 工学部 | 垂水　浩幸 | 45名 |
| 国際交流研究会 Green Sustainable Chemistry | 2014/1/28 | 香川大学幸町キャンパス | Prof. Jason Clyburne<br>カナダ、セントメリー大学<br>Dr. Kazuko Ogino,<br>日本、東北大学<br>Dr. Nik Anni Afiqah binti Haji Mohammad Tuah<br>ブルネイ、ブルネイダルサラーム大学 | 教育学部 | 高木由美子 | 70名 |
| サクセスフル・エイジングに向けた看護実践戦略に関する国際シンポジウム（International Symposium for Strategy of Nursing Practice toward Successful Aging） | 2014/3/1 | 香川大学医学部キャンパス | Khanokporn Sucamvang（タイ国）<br>Teresa Elizabeth Stone（英国） | 医学部看護学科 | 峠　哲男　他 | 25名 |

# 日本学術振興会「二国間交流事業オープンパートナーシップ共同研究」開始ならびに国際セミナー「糖尿病・肥満の比較研究と国際貢献」の開催

インターナショナルオフィス　細　田　尚　美

平成26年度から２年間の予定で、独立行政法人日本学術振興会の「二国間交流事業オープンパートナーシップ共同研究」に、本学医学部の徳田雅明教授を代表とする研究プロジェクト「ブルネイ・ダルサラーム国と日本国における糖尿病及肥満の比較研究を通じた国際貢献」が採択された。本事業は、医学部・教育学部・農学部・インターナショナルオフィスなどの教員11名と大学院生数名が参加し、学際的なアプローチで同国の糖尿病・肥満及びその合併症の罹患率低下を目指すものである。

この事業の一環として、12月17日㈫に香川大学・ブルネイ間共同研究「糖尿病・肥満の比較研究と国際貢献」第２回国際セミナーが幸町キャンパス研究交流棟５階研究者交流スペースで開催された。本セミナーには本学教職員・学生や香川県関係者など合わせて約60人が参加した。

第１部では、長尾学長の開会挨拶の後、在ブルネイ日本国大使館特命全権大使　菅沼　健一氏から「我が国の対 ASEAN 外交と日ブルネイ関係」と題した基調講演を行った。質疑応答では、学生からブルネイ・ダルサラームの文化や生活に関する質問などがあり、活発な意見交換が行われた。

つづく第２部では、二国間共同研究で行われている研究プロジェクトについて、各担当者が研究内容や進行状況等について意見交換を行った。また、各プロジェクトの担当教員より、ブルネイで実施を計画している調査や研究内容について発表が行われた後、質疑応答となったが、菅沼大使からは本プロジェクトに対するアドバイスもあった。

# 日本語教育カリキュラム等の報告

インターナショナルオフィス　高　水　　徹

## 1．概要

インターナショナルオフィス留学生センターが平成25年度に提供した日本語教育関連科目等は、以下の通りである。

① 日本語研修コース
② 日本語講座
③ 日本語補講
④ 医学部における日本語サロン
⑤ 日本語語学研修プログラム
⑥ 日本の食の安全留学生特別コースの日本語関連科目

平成24年度との主な相違は、以下の点である。平成25年度開講の日本語研修コースは、前年度とは異なり、初級レベルであった。対象学生は予備教育後、教員研修生として教育学部に所属予定の学生であった。また、下記⑥に記載する科目に関して、従来のものに加えて、補習的な意味合いで、科目数を増加させた。

## 2．それぞれの科目に関する記述

### ① 日本語研修コース

国費留学生の予備教育として開講されるコースで、集中的に日本語を習得する。毎日開講される「日本語」の他、週１コマの「日本事情」を含む。平成25年度前期は、所属学生がいなかったため、本コースは開講されていない。後期は２名の国費留学生が留学生センターに所属し、本コースを受講した。学生のレベルに合わせ、初級の授業が行われた。

使用教材は『みんなの日本語』で、発音、ひらがなから始め、30課まで終了した。これは例年と比較して、やや遅めのペースである。さらに、習得した日本語の知識の活用があまりなされなかったようであり、進度以上に残念である。授業内での積極性、正答率等が高い学生でもそのような状況であった。担当教員は日本語が専任教員２名、非常勤講師１名、日本事情が専任教員１名である。

なお、平成25年度までの留学生センター所属の国費留学生に関するデータは、末尾に掲載している。

### ② 日本語講座
### ③ 日本語補講

これらの授業は、学生が自分の都合のよい時間に、内容およびレベルを選択して受講することができる。②と③は、以前は位置づけに関しても区別されていたが、近年は予算的な面以外は同様になっており、どちらも本学に所属する学生が日本語力を向上させるためのものであり、単位

の付与はない。

④　医学部における日本語サロン

医学部の留学生のため、地元香川で日本語学習支援・生活支援を行っているボランティア団体である「わ」の会にお願いして、サロンを開催していただいている。以前は日本語レベルの高い学生も対象としていたが、現在では、対象を入門または初級に絞って実施している。

⑤　日本語語学研修プログラム

本プログラムに関しては末尾の一覧に掲載されていない。このプログラムは海外の協定大学等に在籍している学生を対象に、２週間の期間で年２回を原則として行われるものであるため、末尾の一覧のような定期で開講される科目とは異なる。

⑥　日本の食の安全留学生特別コースの日本語関連科目

これらの科目はアジア人財資金構想（高度専門）の科目を引き継いで以降、「アジア人財日本語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」「ビジネス日本語Ⅰ、Ⅱ」「ビジネス教育Ⅰ」で構成されていた。しかし、対象学生の日本語力を引き上げ、卒業時にＮ２程度という卒業要件を満たすという必要性、および学生からの要望により、「食の安全学生向け補講」として科目数を増加させた。

なお、時間割表に全て記載することはできなかったが、夏季および春季休業期間中にも月４回程度の補講を実施している。

以上に加え、留学生センター以外から提供される以下の授業科目も、一覧に掲載されている。

⑦　全学共通科目の日本語・日本事情（大学教育開発センター提供、表中※で表記、単位あり）
⑧　農学研究科 AAP コースの日本語・日本事情

⑦はその編成および実施の一部を大学教育開発センターのコーディネーターとして留学生センター教員が担当している。⑧は農学研究科における英語によるコースの中で、必修化されている日本語および日本事情に関する科目で、その編成および実施を留学生センターが担当している。

これらに関しては、インターナショナルオフィス留学生センターが直接提供しているわけではないが、カリキュラム、非常勤講師の調整、運営等を留学生センターまたはその教員が主導している。

留学生に対するこれらの授業に関する周知は、以下の一覧に基づき、新入留学生対象のガイダンスや掲示、ネット上の掲載を通して行っている。

# 平成25年度　前期　日本語関連授業一覧

| 曜日 | | 幸町キャンパス<br>Saiwai-cho Campus | | 農学部キャンパス<br>Faculty of Agriculture | | 医学部キャンパス<br>Faculty of Medicine | | 工学部キャンパス<br>Faculty of Engineering | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 月<br>Mon | 1 | | | | | | | | |
| | 2 | | | | | | | | |
| | 3 | ※日本語Ⅲa（中上級）<br>Japanese Ⅲa<br>（Upper Intermediate） | 轟木<br>Todoroki | | | | | | |
| | | ※日本語Ⅰa（中級）<br>Japanese Ia<br>（Intermediate） | 山下（直）<br>Yamashita , N. | | | | | | |
| | 4 | | | | | | | | |
| | 5 | | | | | | | | |
| 火<br>Tue | 1 | | | | | | | | |
| | 2 | ※日本語Ⅰb（中級）<br>Japanese Ib<br>（Intermediate） | 山下（明）<br>Yamashita, T. | サバイバル日本語<br>（初級）<br>Survival Japanese<br>（Elementary） | 早川<br>Hay-akawa | | | | |
| | 3 | ※日本事情Ⅰb<br>Japanese Affairs Ib | 正楽<br>Shoraku | 日本語基礎Ⅱ<br>Basic Japanese Ⅱ<br>（Intermediate） | 青木<br>Aoki | | | ☆初中級 1<br>Upper Elementary 1 | 児島<br>Ko-jima |
| | | 中上級総合<br>Upper Intermediate<br>Japanese Lang. Skills | 和田<br>Wada | | | | | ☆初中級 2<br>Upper Elementary 2 | 児島<br>Ko-jima |
| | 4 | 中級作文<br>Intermediate Writing | 和田<br>Wada | ビジネス日本語Ⅰ<br>Business Japanese Ⅰ<br>（Upper Intermediate） | 青木<br>Aoki | | | | |
| | 5 | | | | | | | | |
| 水<br>Wed | 1 | | | | | | | | |
| | 2 | 中級総合<br>Intermediate<br>Japanese Lang. Skills | 秋田<br>Akita | 科学技術日本語<br>Japanese for Science and Technology | 早川<br>Hay-akawa | | | | |
| | 3 | 中級聴解<br>Intermediate Listening | 秋田<br>Akita | | | ○日本語サロン（初級）<br>Lang. Salon Class（Elementary）<br>14：00－15：30 | 「わ」の会 | | |
| | 4 | | | 食の安全学生向け補講 | 塩井<br>Shioi | | | | |
| | 5 | | | 食の安全学生向け補講 | 塩井<br>Shioi | | | | |
| 木<br>Thu | 1 | | | | | | | | |
| | 2 | ※日本語Ⅴb（上級）<br>Japanese Vb<br>（Advanced） | 佐藤<br>Sato | | | | | | |
| | 3 | ※日本語Ⅲb（中上級）<br>Japanese Ⅲb<br>（Upper Intermediate） | 佐藤<br>Sato | | | | | | |
| | | 初中級総合<br>Upper Elementary<br>Japanese Lang. Skills | 高水<br>Takamizu | | | | | | |
| | 4 | 初中級総合<br>Upper Elementary<br>Japanese Lang. Skills | 高水<br>Takamizu | | | | | | |
| | 5 | | | | | | | | |
| 金<br>Fri | 1 | | | | | | | | |
| | 2 | ※日本語Ⅴa（上級）<br>Japanese Va<br>（Advanced） | 早川<br>Hayakawa | | | | | | |
| | | 初中級総合<br>Upper Elementary<br>Japanese Lang. Skills | 塩井<br>Shioi | | | | | | |
| | 3 | ※日本事情Ⅰa<br>Japanese Affairs Ia | 早川<br>Hayakawa | | | | | | |
| | | 初中級総合<br>Upper Elementary<br>Japanese Lang. Skills | 塩井<br>Shioi | | | | | | |
| | 4 | 食の安全学生向け補講 | 塩井<br>Shioi | | | | | | |
| | 5 | | | | | | | | |

# 平成25年度　後期　日本語関連授業一覧

| 曜日 | | 幸町キャンパス<br>Saiwai-cho Campus | | 農学部キャンパス<br>Faculty of Agriculture | | 医学部キャンパス<br>Faculty of Medicine | | 工学部キャンパス<br>Faculty of Engineering | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 月<br>Mon | 1 | | | | | | | | |
| | 2 | 初級日本語<br>Elementary Japanese | 高水<br>Taka mizu | 初級日本語<br>Elementary Japanese | 早川<br>Hay-akawa | | | | |
| | 3 | 初級日本語<br>Elementary Japanese | 高水<br>Taka mizu | | | | | | |
| | | 初中級日本語<br>Upper Elementary Japanese | 塩井<br>Shioi | | | | | | |
| | | ※日本語Ⅳa（中上級）<br>Japanese Ⅳa<br>（Upper Intermediate） | 轟木<br>To-doroki | | | | | | |
| | 4 | 初級日本語<br>Elementary Japanese | 高水<br>Taka mizu | | | | | | |
| | | 初中級日本語<br>Upper Elementary Japanese | 塩井<br>Shioi | | | | | | |
| | 5 | | | | | | | | |
| 火<br>Tue | 1 | | | ビジネス日本語Ⅱ | 宝山<br>Hozan | | | | |
| | 2 | ※日本語Ⅰc（中級）<br>Japanese Ic<br>（Intermediate） | 高水<br>Taka mizu | ビジネス教育Ⅰ | 宝山<br>Hozan | | | | |
| | | 初級日本語<br>Elementary Japanese | 塩井<br>Shioi | | | | | | |
| | | ※日本語Ⅳb（中上級）<br>Japanese Ⅳb<br>（Upper Intermediate） | 山下（明）<br>Yamashita, T. | | | | | | |
| | 3 | 初級日本語<br>Elementary Japanese | 塩井<br>Shioi | 日本語基礎Ⅰ<br>Basic Japanese Ⅰ<br>（Upper Elementary） | 青木<br>Aoki | | | | |
| | | 中上級日本語<br>Upper Intermediate Japanese | 和田<br>Wada | | | | | | |
| | 4 | 初級日本事情<br>Japanese Affairs（Elementary） | ロン<br>Lrong | 日本語基礎Ⅲ<br>Basic Japanese Ⅲ<br>（Intermediate） | 青木<br>Aoki | | | | |
| | | 中上級日本語<br>Upper Intermediate Japanese | 和田<br>Wada | | | | | | |
| | 5 | | | | | | | | |
| 水<br>Wed | 1 | | | | | | | | |
| | 2 | 初級日本語<br>Elementary Japanese | 秋田<br>Akita | フレッシュマンセミナー<br>（初級日本語）<br>Freshman Seminar<br>（Elementary Japanese） | 早川<br>Hay-akawa | | | | |
| | | ※日本語Ⅱa（中級）<br>Japanese Ⅱa<br>（Intermediate） | 佐藤<br>Sato | | | | | | |
| | 3 | 初級日本語<br>Elementary Japanese | 秋田<br>Akita | | | ○日本語サロン（初級）<br>Lang. Salon Class（Elementary）<br>14：00－15：30 | 「わ」の会 | | |
| | 4 | | | 食の安全学生向け補講 | 塩井<br>Shioi | | | | |
| | 5 | | | 食の安全学生向け補講 | 塩井<br>Shioi | | | | |
| 木<br>Thu | 1 | | | | | | | | |
| | 2 | ※日本語Ⅱc（中級）<br>Japanese Ⅱc<br>（Intermediate） | 塩井<br>Shioi | | | | | | |
| | | 初級日本語<br>Elementary Japanese | 高水<br>Taka mizu | | | | | | |
| | | ※日本語Ⅵb（上級）<br>Japanese Ⅵb<br>（Advanced） | 山下（直）<br>Yamashita, N. | | | | | | |
| | 3 | ※日本事情Ⅱa<br>Japanese Affairs Ⅱa | ロン<br>Lrong | | | | | | |
| | | 初級日本語<br>Elementary Japanese | 高水<br>Taka mizu | | | | | | |
| | 4 | 初級日本語<br>Elementary Japanese | 高水<br>Taka mizu | | | | | | |
| | 5 | | | | | | | | |
| 金<br>Fri | 1 | | | | | | | | |
| | 2 | 初級日本語<br>Elementary Japanese | 塩井<br>Shioi | | | | | ☆初中級 1<br>Upper Elementary 1 | 児島<br>Ko-jima |
| | | ※日本語Ⅵa（上級）<br>Japanese Ⅵa<br>（Advanced） | 早川<br>Hay-akawa | | | | | | |
| | 3 | 初級日本語<br>Elementary Japanese | 塩井<br>Shioi | | | | | ☆初中級 2<br>Upper Elementary 2 | 児島<br>Ko-jima |
| | 4 | ※日本語Ⅱb（中級）<br>Japanese Ⅱb<br>（Intermediate） | 早川<br>Hay-akawa | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | 5 | | | | | | | | |

## 留学生センター所属国費留学生

| 期　　間 | 国　　籍 | 人数 | 予備教育後の所属 |
|---|---|---|---|
| 2003年10月～2004年３月 | コスタリカ | 1 | 教育学部（教員研修） |
| 2004年４月～2004年９月 | ドミニカ共和国 | 1 | 経済学研究科 |
| | ベトナム | 1 | 経済学研究科 |
| 2004年10月～2005年３月 | | 0 | |
| 2005年４月～2005年９月 | アルゼンチン | 1 | 医学系研究科 |
| | エジプト | 1 | 医学系研究科 |
| | パプアニューギニア | 1 | 医学系研究科 |
| 2005年10月～2006年３月 | フィリピン | 1 | 教育学部（教員研修） |
| 2006年４月～2006年９月 | | 0 | |
| 2006年10月～2007年３月 | | 0 | |
| 2007年４月～2007年９月 | | 0 | |
| 2007年10月～2008年３月 | | 0 | |
| 2008年４月～2008年９月 | | 0 | |
| 2008年10月～2009年３月 | フィリピン | 1 | 教育学部（教員研修） |
| 2009年４月～2009年９月 | ジンバブエ | 1 | 農学研究科 |
| 2009年10月～2010年３月 | ペルー | 1 | 教育学部（教員研修） |
| 2010年４月～2010年９月 | | 0 | |
| 2010年10月～2011年３月 | カンボジア | 1 | 教育学部（教員研修） |
| | ホンジュラス | 1 | 教育学部（教員研修） |
| 2011年４月～2011年９月 | | 0 | |
| 2011年10月～2012年３月 | インドネシア | 1 | 教育学部（教員研修） |
| | マレーシア | 1 | 教育学部（教員研修） |
| 2012年４月～2012年９月 | ロシア | 1 | 経済学研究科 |
| 2012年10月～2013年３月 | | 0 | |
| 2013年４月～2013年９月 | | 0 | |
| 2013年10月～2014年３月 | フィリピン | 1 | 教育学部（教員研修） |
| | ラオス | 1 | 教育学部（教員研修） |

# 相談事業の報告

インターナショナルオフィス　ロン　リム

平成25年度は例年と同様、本学の留学生相談を１名の教員が担当している。事実上、学内外から、多くの方々の協力や支援を頂き、相談業務を運営している。対応の仕方として、多くの内容は、依頼者に「聞く」だけで済む。対応し難い内容は、まず、学内の同僚や上司と相談して、解決方を探る。それから、必要であれば、学外の専門家や知識人の助けを求める。また、学生に相談業務の周知のため、学内でポスターを掲示すると共にインターネット上にも掲載した。数え方としては、問題１件に対し、相談は１回で済む場合もあり、数回に渡って対応する場合もあった。本年の相談件数は、291件だった。

## １．相談方法

相談方法について（表１を参照）、メールでのルートは131件で、もっとも多かった。直接、来室しての相談は113件だった。来室以外、学内での相談は29件で、学外での相談は14件だった。電話を通しての相談は４件だった。メールでの相談は分かり易くて、記録に残るのもメリットとなる。昨年まで、ファックスでの相談もあったが、今回はなかった。

**表１　相談方法**

（件）

| 月 | メール | 電　話 | 来室での相談 | 学内相談での相談 | 学外相談での相談 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 13 | | 10 | | 2 | 25 |
| 2 | 11 | | 6 | 2 | 2 | 21 |
| 3 | 15 | | 7 | | 3 | 25 |
| 4 | 10 | | 14 | 1 | 1 | 26 |
| 5 | 13 | | 8 | 1 | 1 | 23 |
| 6 | 13 | 2 | 9 | 2 | | 26 |
| 7 | 10 | | 11 | 1 | 3 | 25 |
| 8 | 8 | 1 | 9 | 6 | | 24 |
| 9 | 11 | | 7 | 2 | 1 | 21 |
| 10 | 11 | | 12 | 5 | | 28 |
| 11 | 5 | | 12 | 7 | | 24 |
| 12 | 11 | 1 | 8 | 2 | 1 | 23 |
| 合　計 | 131 | 4 | 113 | 29 | 14 | 291 |

## ２．相談者

相談者別を見ると、教職員との相談は130件でもっとも多かった（表２を参照）。留学生からの相談件数は44件だった。三番目に多かったのは、一般の方々からの42件だった。外部教職員からの相談は33件だった。引き続き、日本人の学生からの相談件数は27件だった。最後に、外部の学生からの相談は15件あった。この件数の順は、昨年と同じだった。

**表２　相談者**

（件）

| 月 | 留学生 | 日本人学生 | 教職員 | 一般 | 外部学生 | 外部教職員 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 5 | 3 | 10 | 3 | 1 | 3 | 25 |
| 2 | 4 | 1 | 8 | 6 | 2 | | 21 |
| 3 | 3 | 2 | 8 | 8 | 1 | 3 | 25 |

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 4 | 3 | 3 | 12 | 1 | 3 | 4 | 26 |
| 5 | 7 | 1 | 8 | 4 | | 3 | 23 |
| 6 | 2 | 1 | 11 | 8 | 1 | 3 | 26 |
| 7 | 6 | 2 | 11 | 5 | 1 | | 25 |
| 8 | 5 | 1 | 14 | | 3 | 1 | 24 |
| 9 | | 4 | 13 | | | 4 | 21 |
| 10 | 6 | 3 | 13 | 1 | 1 | 4 | 28 |
| 11 | 3 | 4 | 14 | 1 | | 2 | 24 |
| 12 | | 2 | 8 | 5 | 2 | 6 | 23 |
| 合　計 | 44 | 27 | 130 | 42 | 15 | 33 | 291 |

３．相談内容

相談内容について、一番多かったのは、学務関係だった（表３を参考）。これは98件だった。単位取得が順調ではない、様々な問題と繋がってしまうケースは複数あった。また、海外からの入学の問い合わせや奨学金の詳細の紹介などの相談もあった。２番目に多かった相談内容は、国際交流関係のことだった。件数としては79件だった。３番目に多かったのは情報交換関係で、29件だった。学術交流関係の相談は28件を記録した。５番目に多かった相談内容は、名誉棄損問題だった。この年、特別にある元留学生がこの問題を起こしている。記録として、15件だった。次に、就職やアルバイトに関する相談は９件だった。７番目に多かった相談内容は、生活一般のものだった。これは７件だった。入管関係と経済問題は共に６件を記録した。

**表３　相談内容**

（件）

| 月 | 交通事故 | 指導教員とのトラブル | 名誉棄損問題 | 暴力事件 | ハラスメント | 盗難被害 | 犯罪の加害 | 情報交換関係 | 学業関係 | 入管関係 | 経済問題 | 医療関係 | 生活一般 | 就職・バイト | トラブル関係 | 国際交流活動 | 学術交流関係 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | | | | | 4 | 7 | | | | | 2 | 3 | 8 | 1 | 25 |
| 2 | | | 8 | | | | | | 6 | | 1 | | | | | 5 | 1 | 21 |
| 3 | | | 7 | | | | | 7 | 2 | | 1 | | | 2 | | 6 | | 25 |
| 4 | | | | | | | | 3 | 8 | 2 | | | | 1 | | 10 | 2 | 26 |
| 5 | | | | 1 | | | | 1 | 6 | 2 | 4 | | 1 | | | 7 | 1 | 23 |
| 6 | | | | 1 | 1 | | 1 | 2 | 14 | | | | | 2 | | 5 | | 26 |
| 7 | | | | | 1 | | | 1 | 9 | 1 | | | 2 | 1 | 1 | 9 | | 25 |
| 8 | | 1 | | | | | | | 13 | | | | 1 | | | 4 | 5 | 24 |
| 9 | | | | | | | | 2 | 6 | | | | 3 | | | 6 | 4 | 21 |
| 10 | 1 | | | | | 1 | | 1 | 6 | | | | | | | 9 | 10 | 28 |
| 11 | 1 | | | | 1 | | | 6 | 6 | 1 | | | | | | 8 | 1 | 24 |
| 12 | | | | | | | | 2 | 15 | | | | | 1 | | 2 | 3 | 23 |
| 合計 | 2 | 1 | 15 | 2 | 3 | 1 | 1 | 29 | 98 | 6 | 6 | 0 | 7 | 9 | 4 | 79 | 28 | 291 |

残りは、件数は少ないが、「問題」の多い内容だった。まず、トラブルの関係というのは、４件だった。内容は、学生が宿舎の管理人に叱られて不満を発するケースだった。もう一つのケースは、男女関係のことだった。ハラスメントの相談は３件を記録した。これは、教員同士のことだった。留学生の間で起きた暴力トラブルは２件だった。同じ２件を記録したのは、交通事故だった。最後に、１件ずつ記録したのは、指導教員とのトラブルや盗難被害をうけた学生、犯罪を起こした学生の相談だった。

4．過去５年間のデータと比較

参考に、過去５年間のデータと比較した数値が表４である。各項目に関する相談件数は、平年並みである。分類の仕方は大きな改善をし、トラブル関係の項目を、もっと詳しく分けてみた。交通事故や指導教員とのトラブルなど、表の下の部分で整理している。

**表４　過去５年間のデータと比較**

（件）

| 相談内容 | 2008 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 情報交換関係（情報収集・提供、挨拶） | 58 | 26 | 52 | 32 | 18 | 29 |
| 学業関係（入学、進学、研究、学習、見学） | 22 | 18 | 41 | 99 | 71 | 98 |
| 入管関係（入管、ビザ、在留） | 2 | 19 | 4 | 6 | 2 | 6 |
| 医療関係 | | | | 3 | 7 | 0 |
| 生活一般（住居、日常生活、チューター） | 29 | 53 | 31 | 24 | 33 | 7 |
| 就職・アルバイト関係 | 12 | 7 | 7 | 2 | 6 | 9 |
| 国際交流・サークル活動 | 114 | 70 | 81 | 65 | 74 | 79 |
| 学術交流関係（海外大学協定など） | 29 | 15 | 32 | 21 | 17 | 28 |
| 経済問題（奨学金、授業料） | 4 | 6 | 23 | 5 | 2 | 6 |
| トラブル関係（人間関係、ミスコミュニケーション、家庭内トラブル、交通事故、事件） | 5 | 16 | 11 | 42 | 45 | 4 |
| 交通事故 | | | | | | 2 |
| 指導教員とのトラブル | | | | | | 1 |
| 名誉棄損問題 | | | | | | 15 |
| 暴力事件 | | | | | | 2 |
| ハラスメント | | | | | | 3 |
| 盗難被害 | | | | | | 1 |
| 犯罪の加害 | | | | | | 1 |
| 合　計 | 275 | 230 | 282 | 299 | 275 | 291 |

※「医療関係」の項目は、2011年より設けた。

# 全学共通科目「Study Abroad」授業の報告

インターナショナルオフィス　正　楽　　藍

本学の全学共通科目として、平成25年度から新たに「Study Abroad－Global English at UC/UWA」を開講した。この科目は、グローバル人材に求められる３要素（語学力・コミュニケーション能力、主体性・積極性など、異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティ）を養うことを目的として、本学での国内研修と本学の学術交流協定校（カルガリー大学及び西オーストラリア大学）での研修を組み合わせたものである。平成25年度は経済学部と法学部、農学部、医学部の計14名が受講し、学年も１年次生から４年次生までさまざまだった。

国内研修では、英語によるコミュニケーションとして self-introduction や topic discussion、presentation を実施した。また、派遣先大学への申込書類の作成やパスポートの取得、航空券の手配なども授業の一環として行った。書類作成にあたっては、英語での住所の書き方に戸惑ったり、サインをローマ字で書くべきか漢字で書くべきかを迷ったりする姿も見られたが、こうしたことすべてが受講生にとって貴重かつ必要な経験だ。また、受講生はそれぞれ、相手の心に伝わる英語での自己紹介やプレゼンテーションに工夫を凝らしたり、他の受講生の発表にうまく質問できずもどかしい思いをしたりしながらも、夏季休暇中の海外研修を期待と不安が入り混じった気持ちで待ち望んでいる様子だった。

海外研修の前後にそれぞれ１回ずつ、TOEFL-ITP テストを受験させた。これは、研修での英語力の伸びを客観的指標で知ることの他、海外留学に必要となる TOEFL テストを体験してもらうことが目的だ。研修前のテストでは、期待以上の高い点数に安どする受講生もいれば、他の受講生の英語力が高いのを知って不安がる受講生もいた。研修後のテストでより高い点数を取ることが海外研修の主な目的ではもちろんないが、研修後のテストでどれくらい結果を伸ばすかの目標を立てることも重要だ。実際、海外研修後の TOEFL-ITP テストでは、ほぼすべての受講生が点数の伸びを確認できた。

協定校での研修では、最初、他のさまざまな国から集まった研修生との授業になじめず、自身の英語力や積極性の足りなさを実感した様だ。しかし、次第に授業にも慣れ、ホストファミリーとも打ち解けて、たどたどしく、そして、ゆっくりとした英語ではあるが、何とか自分の意思を相手に伝えることができていた。研修期間が終わるころには他の研修生ともすっかり打ち解けて、帰国後も Facebook 等でつながりを持っている様だ。

最後に、この科目のもう１つの、しかし重要な目的は、夏季休暇などを活用した極短期の海外経験を積むことで、数か月や１年というより長い期間の留学を目指す学生を１人でも多く出すことだ。そのために、この科目に今後、どのような更なる工夫が必要なのかを考えていきたいと思う。

# 全学共通科目「海外体験型異文化コミュニケーション」授業（タイ研修）の開講

インターナショナルオフィス　ロン　リム

平成25年度に、インターナショナルオフィスは、２回目となる「海外体験型異文化コミュニケーション」を開講した。１回目と同じく、受講生は６名だった。経済学部からの受講生は３名で、工学部や教育学部、法学部から１名ずつだった。２年生は１名で、残りの５名は全て１年生だった。４月から７月まで、本学で事前学習をして、９月１日㈰から14日㈯までタイ北部にあるチェンマイ大学へ移動して、研修をした。受講生は英語で、香川県や香川大学の紹介をして、チェンマイ大学のバディズとテーマ別でディスカッションして、プレゼンテーションをした。他に、NGO キャンプや日系企業の見学をしたりして、本学の教室内で勉強できないことを学習して来た。

# 海外語学研修プログラム（韓国語）の報告

インターナショナルオフィス　塩　井　実　香

インターナショナルオフィスでは、従来、海外語学研修として、英語圏と韓国へ、英語ならびに韓国語の語学研修への参加希望学生を派遣してきた。研修先は、本学の学術交流協定校であったり、協定関係にはなくても、本学教員が訪問あるいは情報収集をして派遣にふさわしいと判断した先であったりする。

平成23年度より、英語圏への派遣に関しては、全学共通科目の中に授業として位置付け、所定の事前授業や研修を受けてから派遣先での研修を修め、帰国後の体験発表等を終えた学生に、単位を付与する形をとることとした。

そこで、従来の年報には英語研修・韓国語研修まとめて１項目として報告を掲載してきたが、本号より項目を分けて掲載することとした。

本稿では、従来どおり単位のない形で派遣する韓国語研修プログラムの派遣実績について報告する。英語圏での研修については別項（37 ページ）参照。

インターナショナルオフィスが派遣している韓国語研修先は、大邱大学と建国大学の２大学である。大邱大学は学術交流協定校であり、建国大学は、協定関係にはないが、我々が日本語語学研修プログラムで学生を受け入れるなど、以前より交流のある大学である。

大邱大学とは、本学から同大へ協定に基づき交換留学生として留学する学生が残念ながらほとんどいないことから、「本学が同大から受け入れた交換留学生１名につき、５名の本学日本人学生を、韓国語研修プログラムに授業料不徴収で派遣できる」という、いわば特例措置をとってもらっている。

本学が海外へ派遣する学生については、平成25年度より、本学所定の海外旅行保険（包括契約）への加入を義務付けることとなった。よって、派遣形態が変わっても、英語研修への派遣学生も、韓国語研修への派遣学生も、渡航時期が近い者についてはまとめて加入手続きをし、渡航前の危機管理ガイダンスを受けさせたうえで派遣することとしている。

１．大邱大学

平成25年８月５日㈪～８月23日㈮の３週間、夏季プログラムが実施され、１名を派遣した。

２．建国大学

夏季プログラム（平成25年８月12日㈪～23日㈮の２週間）は、全学的に募集をかけたが参加希望者はいなかった。

冬季プログラム（平成26年２月18日㈪～28日㈮の２週間）に、希望者１名を派遣した。

# 第19回日本語語学研修プログラム報告

インターナショナルオフィス　塩　井　実　香

１.「日本語語学研修プログラム」の目的

本プログラムは、「外国人学生に日本語教育を提供し、併せて日本、特に香川の歴史や文化を紹介するとともに、日本人及び地域社会との交流を図ること」を目的として、平成17年より行っているものである。併せて、本研修への参加が、その後の本学への正規留学につながるようにという、言わば呼び水効果の意図もある。

平成24年度には、例年どおり夏季と冬季の２回実施した。以下、それぞれのプログラムについて記す。

２．第19回日本語語学研修プログラム

２－１．研修生

定員10名、最低履行人数５名に対し、６名の応募があり、実施に至った。

参加者の内訳は、韓国の清州大学から４名、台湾の真理大学から２名で、両大学とも本学の学術交流協定校である。もともと、各大学より２名程度ということで学術交流協定大学を中心に交流のある募集をかけていたが、応募者数ゼロの大学が多かったことから、清州大学からの希望者全員を受け入れることとなった次第である。

同大学からは今回初参加であり、初参加の大学からの希望者が多かったのは嬉しいことであった。（なお、同大学からは当初５名の参加申し込みがあり、５名全員を受け入れる予定にしていたが、就職活動の関係で１名辞退し、４名の参加となった。）

本プログラムの参加者は、これまで、女子学生のほうが多い、もしくは女子学生のみ、というのがほとんどだったが、今回は珍しく男性４名、女性２名という構成となったことは印象深い。（ちなみに、上記の辞退者１名も男性であった。）

２－２．研修期間

平成25年７月１日㈪から７月12日㈮の２週間。

研修生は、研修期間中、本学キャンパス内の宿泊施設「幸町会館」に宿泊する。以前は研修開始日の前日、すなわち日曜日にチェックインさせていたが、前回第18回プログラム（冬季）時に、大学入試センター試験実施に伴う週末入構制限の関係で金曜チェックインにしたところ、後述する本学バディーズ学生との交流や香川の地に慣れるという意味で週末有意義に過ごせたことから、今回第19回プログラムでも、宿舎チェックインは６月28日㈮とした。

２－３．研修日程・研修内容

以下の日程で行った。

授業・体験学習・体験学習はいずれも、午前は10：00～11：50、午後は13：00～14：50である。（授業の場合は、台湾・韓国の大学の時間設定に倣って50分単位で設定し、10分休憩をはさむこととしている。体験学習・学外実習もこの時間設定に準ずる。）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 7／1㈪ | 午前：開講式、ガイダンス<br>午後：授業「総合」（担当：ロン）<br>18：00～：情報交換会 | 7／7㈰ | 16：00まで：ホームステイ |
| 7／2㈫ | 午前：インターナショナルオフィス長表敬訪問、授業「総合」（担当：高水）<br>午後：授業「日本事情」（担当：細田） | 7／8㈪ | 午前：体験学習「華道」（講師：華道部、担当：塩井）<br>午後：授業「さぬき学」（担当：高水） |
| 7／3㈬ | 午前：授業「総合」（担当：塩井）<br>午後：体験学習「茶道」（講師：石州流茶道部、担当：正楽） | 7／9㈫ | 午前：学外実習「四国村」（担当：ロン）<br>午後：授業「総合」（担当：塩井） |
| 7／4㈭ | 午前：学外実習：栗林公園（担当：細田）<br>午後：授業「さぬき学」（担当：正楽） | 7／10㈬ | 午前：授業「作文」（担当：高水）<br>午後：体験学習「書道」（講師：書道部、担当：正楽） |
| 7／5㈮ | 午前：学外実習「さぬき麺業」（担当：高水）<br>午後：授業「日本事情」（担当：細田）<br>16：00～：ホストファミリーとの対面式（担当：高水・塩井）、ホームステイ | 7／11㈭ | 午前：授業「作文」（担当：塩井）<br>午後：授業「日本事情」（担当：ロン） |
| 7／6㈯ | 終日：ホームステイ | 7／12㈮ | 午前：授業「総合」（担当：正楽）<br>14：00～　花・花器の片付け<br>14：45～　着物の着付け<br>16：30～　研修体験発表会<br>17：30～　修了式<br>18：00～19：30　意見交換・反省会 |

２－４．授業・体験学習・学外実習・企業見学

授業、体験学習、学外実習等の設定は従来どおりで、特に変更はない。日本語非常勤講師の協力が得られる時には授業を担当してもらっているが、今回は都合が合わなかったため、専任教員のみで各種担当を分担した。

「日本事情」の授業においては、日本について記事を書き壁新聞のようなものを作ったり、香川についてプレゼンテーションをしたりする時間も設けられた。学習中の日本語を使い、より深く日本や香川を知る好機になったと思われる。

茶道・華道・書道は、従来どおり本学の当該サークルの学生に指導を依頼しており、同世代同士の交流という意味でも充実した時間となっている。最終日の着物の体験も、従来どおり地元で国際交流活動をなさっている講師の方々にボランティアでご協力いただいた。

なお、茶道については、栗林公園見学時にお茶席の体験もさせているので、なるべく栗林公園見学前にあらかじめ勉強させておきたいと思っているのだが、今回は茶道部ともうまく調整がつき、栗林公園見学の前日にひととおり勉強・体験できて、翌日の実践につながったので、よかった。

２－５．バディーズについて

第15回プログラムから、バディーズという制度を設けた。国際交流に関心のある本学の学生を募り、研修期間中、研修生の生活のサポートをしたり交流したりして過ごしてもらうものである。自ら手を挙げてくれるだけあって、非常に意欲的に、また親切丁寧に研修生と接してくれ、我々関係教職員にとっては非常に頼もしい存在である。研修生の渡日前から Facebook で連絡を取り合うなどして関係を構築してくれ、研修終了後も関係を続けていることは、研修生にとってもバディーズ学生にとっても好ましいことであると言える。バディーズは日本人に限定していないため、第18回以降は本学在籍中の留学生でバディーズを務めてくれる学生もおり、香川での経験が長い先輩として一役買ってくれているようである。

２－６．第19回プログラムを振り返って

文化体験の講師を務めてくれた学生たち、バディーズ、ホストファミリーの皆様、その他関係各位のご協力のおかげで、滞りなくプログラムを終えることができた。研修生たちの修了作文やアンケートからも、非常に満足できる研修プログラムとなったことが窺える。

本学における留学生受け入れ計画等の関係で、本プログラムは残念ながら第20回をもって終了することが決まったが、最終回となる第20回も、第19回同様充実したものにしたいと思える２週間であった。

３．第20回日本語語学研修プログラム

例年どおり冬季に実施予定で計画を立て、募集を行ったのだが、追加募集もしたものの応募者が最低履行人数の５名に満たなかったため、次年度送りとすることとした。応募者が少なく実施を見送ったのはこれが初めてのことである。毎回、参加希望者の多い主たる協定校での行事、冬季の場合は旧例の正月等について事前に調べ、できるだけ参加しやすい日程を考えているのだが、明確な理由は不明だが、この回に限っては奏功しなかったようである。

４．参考データ

以下に、第19回までの実施に関するデータを示す。（第１～19回の研修生は累計211名。）

## 《参考》　過去の実績（ゴシックは協定大学）

| | 実施時期 | 期間 | 韓国 | | | | | | | | | 台湾 | | | 中国 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | **韓国海洋大学** | **南ソウル大学（※2）** | **大邱大学** | 建国大学 | 蔚山科学大学 | **ハンバット大学（※3）** | **誠信女子大学** | **漢陽大学** | **清州大学** | 南台科技大学 | **真理大学** | 輔仁大学 | **河北医科大学** | **北京工業大学** |
| 第１回 | 2005／6／27～7／9 | ２週間 | 2 | 15 | | | | | | | | | | | | |
| 第２回 | 2006／2／6～2／18 | ２週間 | 1 | | | | | | | | | 12 | | | | |
| 第３回 | 2006／6／26～7／8 | ２週間 | | 1 | 5 | | | | | | | | | | | |
| 第４回 | 2006／8／21～8／25 | １週間 | | | | | | | | | | | | | 22 | |
| 第５回 | 2007／1／22～2／3 | ２週間 | | | | | | | | | | 19 | | | | |
| 第6回（※1） | （2007／6／27～7／28） | （４週間） | | | | | | | | | | | | | | |
| 第７回 | 2008／1／21～2／2 | ２週間 | | | | 3 | | | | | | | 5 | | | |
| 第８回 | 2008／6／23～7／18 | ４週間 | | 9 | | | | | | | | | | | | |
| 第９回 | 2009／1／19～1／30 | ２週間 | | | | 3 | 5 | | | | | | 5 | 3 | | |
| 第10回 | 2009／6／29～7／24 | ４週間 | | 3 | 2 | 3 | | | | | | | 2 | 3 | | 1 |
| 第11回 | 2010／1／25～2／5 | ２週間 | | | | 1 | | 5 | | | | | 3 | 3 | | 2 |
| 第12回 | 2010／6／28～7／9 | ２週間 | 3 | | | 1 | | 1 | | | | | | 2 | | |
| 第13回 | 2010／7／27～7／30 | ４日間 | | | | | | | | | | | | | 15 | |
| 第14回 | 2011／1／17～1／28 | ２週間 | 5 | | | | | | | | | | | 6 | | |
| 第15回 | 2011／6／27～7／8 | ２週間 | 4 | | | | | | | | | | 1 | 7 | | |
| 第16回 | 2012／1／30～2／10 | ２週間 | 4 | | | | | | 1 | | | | 2 | 2 | | |
| 第17回 | 2012／6／25～7／6 | ２週間 | 2 | | | | | | | | | | 1 | 2 | | |
| 第18回 | 2013／1／28～2／1 | ２週間 | | | | 1 | | | 1 | 2 | | | | 4 | | |
| 第19回 | 2014／7／1～7／12 | ２週間 | | | | | | | | | 4 | | 2 | | | |
| 大学別計（人） | | | 21 | 28 | 7 | 12 | 5 | 6 | 2 | 2 | 4 | 31 | 21 | 32 | 37 | 3 |

※１　プログラムを計画し、学生募集も行ったが、本学における百日咳流行のため中止した。

※２　南ソウル大学は、2006年３月（第２回研修の翌月）に協定締結のため、第１回参加時には協定未締結。

※３　ハンバット大学は、2008年11月に協定を締結し、第11回より本研修に参加。

# 平成25年度短期（６ヶ月）日本語プログラム報告

インターナショナルオフィス　塩　井　実　香

本学の学術交流協定校の１つである韓国の大邱大学とは、同大における「現地学期制」を担うものとして、同大人文学部日本語日本学科と我々留学生センターとの間で覚書を取り交わし、平成19年より６ヶ月プログラムを設けて、日本語専攻の学生を受け入れてきている。「現地学期制」とは、外国語を専攻する学生が、半年間海外留学をして単位を取得してくるものである。本制度による受け入れは、いわゆる交換留学の枠とは異なるため、同大からの学生は特別聴講学生としてではなく科目等履修生として本学へ留学し、日本語・日本事情科目を中心に、全学共通科目や学部開設科目の中から必要単位数分の授業を履修する。

当該学生の日本語能力や専門分野の関係上、また、本学における履修上の規制（例えば、Ａという科目を履修していないとＢという科目の履修が許可されない、等）もあり、全学共通科目あるいは文系学部開設科目であれば何でも履修可能というわけではない。そこで、我々インターナショナルオフィス（留学生センター）側で事前に履修可能な科目をピックアップしてその一覧を先方に提示し、その中から履修科目を選んでもらう、という形をとっている。そのため、その選択・提示方法のイメージから、我々の内部では本プログラムを「バスケット方式」と呼んでいる。

本プログラムは定員を５名としており、これまで初年度平成19年度から平成22年度までの４年間に計18名を受け入れてきた。その後、平成23年度は東日本大震災の影響により、平成24年度は震災の余波および円安の影響により、２年連続応募者はゼロであったが、平成25年度には３名の応募があり、受け入れを行った。これで、本プログラムでの受け入れ数は計21名となった。

学生３名は、インターナショナルオフィス専任教員のうち副オフィス長を除く３名の教員が１名ずつ指導教員を担った。（※専任教員は５名だが、この年の受け入れ時期に１名は休職中であった。）

本プログラム学生は、本学所属の学部正規留学生や日本人学生と同じ授業を履修することもあることから、受け入れ条件として、日本語能力試験Ｎ１（旧１級）相当以上の日本語能力を求めている。ただ、今回の応募者３名にはＮ１相当以上の学生は残念ながらおらず、Ｎ２合格者が２名、Ｎ２相当と同大日本語教員が認めた学生が１名であった。本学としては、受け入れ許可イコール単位取得を保証するものではなく、実際、以前には残念ながら履修登録した全授業の単位は取得できない学生もいた。しかし、それは承知のうえでの応募・留学であるため、本学としても当該学生および先方の担当教員の意思を尊重し、Ｎ１に満たなくても受け入れた次第である。

当該学生３名が履修した授業は、以下のとおりである。

| | 履修授業科目 | | 曜日・時限 | 単位数 | 担当教員 | 開設部局 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | 日本語Ⅰc | 必修 | 火２ | 1 | 高水 | 大学教育開発センター |
| ② | 日本語Ⅱa | 必修 | 水２ | 1 | 佐藤 | 大学教育開発センター |
| ③ | 日本語Ⅱb | 必修 | 金３ | 1 | 早川 | 大学教育開発センター |
| ④ | 日本語Ⅱc | 必修 | 木２ | 1 | 塩井 | 大学教育開発センター |
| ⑤ | 日本事情Ⅱa | 必修 | 木３ | 2 | ロン | 大学教育開発センター |
| ⑥ | 国際社会と日本・日本語 | | 月５ | 2 | ロン他 | 大学教育開発センター |
| ⑦ | ジェンダー論 | | 月２ | 2 | 加野 | 教育学部 |
| ⑧ | 国際比較文化研究 | | 火５ | 2 | 平他 | 教育学部 |

なお、本プログラムの覚書は２年ごとに更新することとなっており、平成25年４月に３度目の更新を行ったことを書き添えておく。

# 各部局主催の短期受入プログラムにおける日本語授業の報告

インターナショナルオフィス　塩　井　実　香

平成23年度より、JASSOによる助成を受け、短期で海外から学生を受け入れる「Short　Stayプログラム（SSプログラム）」と、短期で本学学生が海外研修に行く「Short Visitプログラム（SVプログラム）」が全国的に実施されるようになった。本学でも、複数のプログラムが採択され、担当部局主導で実施されている。

本報告では、インターナショナルオフィスが、平成23年度より授業協力を行っている、農学部におけるSSプログラムと、SSプログラムではないが部局単位で行われ、インターナショナルオフィスも授業協力をした教育学部の短期受入プログラムについて記す。

以下、日程順に両プログラムについて述べたい。

## １．教育学部「アジア・アメリカ異文化交流短期受入プログラム2013」

教育学部が主管となって大学間協定を締結しているアメリカのコロラド州立大学より、平成25年５月27日㈪から６月28日㈮までの５週間、同大で日本語を学習中の学生７名が来日し、教育学部で研修を行った。いわゆる日本語の授業、日本事情的な授業、教育学部開設科目への参加、各種見学・体験等で構成されているプログラムの中で、インターナショナルオフィスからも高水・塩井が日本語授業担当として協力することとなった。これは、教育学部長からインターナショナルオフィス長への依頼という形を経て学内非常勤講師として受けたものであり、同大参加学生には単位が付与されることから、本学（教育学部）所定の書式によりシラバスも作成して、実施に備えた。

学生７名は、日本語学習歴や日本語能力により初中級４名と中上級３名に分け、前者を高水担当の「国際交流基礎演習Ⅰ」、後者を塩井担当の「同Ⅱ」授業にて受け入れることとした。授業時間数はいずれも、５週間のうち、90分授業が４コマ、60分授業（本学12：00～13：00の昼休憩が充てられた）が５コマの計11時間（660分）であった。

授業は、それぞれの能力や関心に合った題材・教科書を用いて行われた。ただし、初回はオリエンテーションを兼ねて、最終回は研修最終日の成果発表（PowerPointを用いた日本語でのプレゼンテーション）の準備を兼ねて、両クラス合同で行われた。

成果発表は、準備期間が短かったにもかかわらず、各自関心のあるテーマについて、しっかりとした日本語で行われ、５週間の学びが充実したものであったことが窺えた。

インターナショナルオフィスは全学の組織であり、また、我々は日本語教育が専門の教員であるため、このような形で部局のプログラムに協力できるのは嬉しいことである。ただ、部局主導の取り組みである以上、さらに言えば、日本語教育専門の教員が所属する教育学部での取り組みである以上、教育学部教員とインターナショナルオフィス教員の授業負担の割合については再考が必要ではないかと思われる部分もあった。また、予定されていた各種活動を限られた日程でこなす必要上

もあったとは言え、連日昼休憩にも授業が組まれていたのは、担当教員にとっても受講する学生にとっても厳しい面があったことも否めない。教育学部におけるこのような形でのプログラム実施は今回が初めてであったが、これを一つのステップとして、次回より良い形での実施を望みたい。

2．農学部「東南アジアなどの食品安全機能解析教育に関する大学間相互交流プログラム（Educational Program for students from South East Asia and Pacific Rim on Food Safety and Nutraceutical Science at Faculty of Agriculture, Kagawa University）」

農学部では、「日本の食の安全」留学生特別プログラムという修士課程のコースがあることもあり、平成23年より食品安全実践教育を目指すSSプログラムが、夏季休業中を利用して行われている。このプログラムには、将来的に本学修士課程に入学する学生が出てくることも期待して、日本語・日本文化を学ぶ時間も組み込まれており、インターナショナルオフィスの高水・塩井の2名が日本語授業を担当している。

平成25年度は、8月20日㈫から9月19日㈮までの約1ヶ月間のプログラム中、5回の日本語授業が行われた。中国・タイ・インドネシア・アメリカ・ブラジル・トルコから計22名の学生が渡日し、文字・挨拶・簡単な会話といった日本語の基礎を学び、1回分（時間数で言えば2コマ分）の授業を使って、実際に学外へ出て学んだ日本語を使う買い物体験も行った。例年どおり、事前課題としてインターネット上の学習サイトや我々が準備しPDFで送った教材を利用したひらがな・カタカナ・挨拶表現の予習も課し、また、これも例年どおり、農学研究科在籍中の日本語学習歴のある留学生に、サポーターとして授業・買い物体験に協力してもらうことも行った。

例年と異なったのは、今回より成績を出すこととなったことである。（ただし、正課で行われているような「S、A、B、C、X（秀、優、良、可、不可）」ではなく、「Pass、X（合、否）」の2種のみ。）　よって、全授業終了後に簡単なレポート課題を課し、日頃の授業への取り組みの態度等も勘案して成績を提出した。レポートでは、「日本語を学んでみた感想」「日本滞在中、どんな日本語を使用し、どう感じたか」「日本文化体験はどうだったか」という3点を問い、英語で書かせた。

ほとんどの学生が日本語初心者で、中国人4人を除く全員が非漢字圏出身者であったため（日系ブラジル人が1名いたが、日本語はほとんどできず）、短期間で、かつ、主たる目的の専門分野の学習をしながら、日本語の文字・語彙・表現などを学ぶのは大変だったと思われるが、提出されたレポートを読むと、皆日本語学習経験や日本語使用の経験にプラスの評価をしてくれており、これが今後本学への正規の留学あるいは再渡日につながればと願うものであった。

なお、農学部でも、次年度は各授業ごとにシラバスを作成し、単位付与を行う予定とのこと。これまでも、SSプログラム参加者から正規生として本学大学院へ出願・入学する者が数名いたが、今後プログラムの体制整備が進み、本学大学院入学を次のステップとして選ぶ学生が増えることを希望している。

# 留学生対象各種進学説明会

インターナショナルオフィス　高　水　　徹

国内においては、平成25年６月から９月にかけて、日本語学校の留学生や教員を対象とした説明会に計７回参加した（末尾の表を参照）。会場は高松、岡山、大阪である。昨年度参加した福岡を会場とした説明会には、参加しなかった。これらの説明会には、JASSO主催のもの、民間の機関主催のもの、日本語学校主催のものが含まれる。近年は特に岡山での広報活動を重点的に行っているが、その理由は、毎年岡山の日本語学校から本学に進学する留学生が多く、地理的条件を考えれば、今後も多くの留学生の入学が見込めるからである。

実際に岡山の会場では、他の開催地と同様の説明を行い、一見類似した質問を受けた場合でも、他の会場よりも詳細な内容であり、より真剣かつ具体的に本学への進学を検討している様子が伝わってきた。一方で、岡山会場においては、生活環境に関する質問などはあまり出てこない。これは、本学との地理的な近さを考えれば、学生にとって質問の必要がないからであると考えられる。

今年度も、高松において説明会が実施された。形態としては、穴吹ビジネスカレッジ（日本語学科）の校内進学相談会（ただし、会場は校内ではない）である。したがって、参加した学生は穴吹ビジネスカレッジの学生のみであったが、外部の会場を借り、複数の教育機関が資料参加や会場参加を行っていた点で、他の説明会と同様であった。穴吹ビジネスカレッジは、本学から最も近い県内の日本語学校であり、以前から本学へ多数の留学生が進学している。他の会場とは異なり、地理的なことや交通機関に関する質問などはなく、その分試験制度に質問が集中していた。一方で、専門分野や試験科目などの理由で、同校からの本学への進学を今以上に増やすことは、必ずしも容易ではない。

国外においては、今年度も海外におけるJASSO主催の日本留学フェアに参加した。平成25年５月25日㈯、26日㈰に、ベトナムのホーチミン、ハノイ会場にて、ブースを設置して広報活動を行った。日本全体へのベトナムからの留学が急増する中での開催であり、また、日本ベトナム友好年（日本ベトナム外交関係樹立40周年）ということもあり、会場は非常に熱気があった。

昨年度の報告においては、親の意向により留学を希望する学生が多い点に触れたが、今年度もそのような保護者が多く見られ、本人よりも熱心に質問するケースが散見された。

ホーチミン会場では、日本語学校に在籍している学生が多く来場した。日本で日本語を学びたいという学生が多かった。熱心に様々な質問をする学生の中には、日本語知識は乏しいが、日本に留学したいという希望が強い者がおり、これらの学生からは、入試制度や大学生活についての質問が多かった。日本語知識がゼロでも英語に堪能な学生も多く見られた。この点は昨年とは異なっている。英語が堪能な学生には目的意識を持った者が多く、本学の学部と修士課程においては、主に日本語のみで授業を行っている旨の説明をすると落胆されることがあった。

ハノイ会場では、日本留学をしたいが具体的な進路は決めかねているという学生がホーチミンよりも多かった。

日本語能力に関しては、ベトナムにおいて日本語学校に通っていたとしても、語学力の不足により、高等教育機関への進学前に日本の日本語学校に入ってより語学能力を高める必要があるだろう。実際に、日本語学校の学生が本学ブースに来た場合でも、通訳抜きで日本語で話せる学生は少

なかった。

一方で、上記のように国全体として日本への留学が増加中であり、当分この傾向は続くと考えられるため、本学への留学生も徐々に増加することが見込まれるだろう。

| 開催日 | 開催地 | 会　場 |
|---|---|---|
| 5月25日㈯ | ベトナム（ホーチミン） | ホーチミン市国際展示場 |
| 5月26日㈰ | ベトナム（ハノイ） | ハノイ I.C.E. 国際展覧会場 |
| 6月3日㈪ | 岡山 | 第一セントラルビル |
| 6月29日㈯ | 大阪 | チサンホテル新大阪 |
| 7月18日㈭ | 岡山 | 第一セントラルビル |
| 7月19日㈮ | 高松 | 高松センタービル12F |
| 7月21日㈰ | 大阪 | グランキューブ大阪 |
| 8月30日㈮ | 大阪 | 清風情報工科学院 |
| 9月6日㈮ | 大阪 | 大阪国際交流センター |

# 課外教育行事

インターナショナルオフィス　高　水　　徹

第１回

平成25年９月24日㈫および25日㈬、１泊２日の課外教育行事を実施した。１日目は徳島県、２日目は高知県を訪問した。

初日に最初に訪れたのは、大塚製薬である。同社の見学には、製品、歴史等の一般的な企業見学も含まれているが、同社の発想の背景にある哲学的な内容や研究成果も含まれていた。水耕栽培のトマトは、その顕著な例である。続いて、阿波おどり会館を訪問し、阿波おどりを実演も含めて学んだ。同会館は何度か本行事で訪問しているが、毎回学生に好評である。加えて、今回は昼食としてそば打ち体験を実施した。特徴的なのは「うつぼだし」であった。その後渦潮を見学して、宿に向かった。

２日目は、まず大歩危遊覧船に乗船した。岩盤の層が特徴的で、船内でもその特異性などについて説明がなされた。昼食は高知県に移動し、ひろめ市場でとった。香川県においては同種の場所が閉鎖されてしまったので、学生には貴重な体験となった。最後に牧野植物園を見学した。農学系の学生が多く参加していたこともあり、非常に興味深い見学となった。

第２回

平成26年２月24日㈪、日帰りの課外教育行事を実施した。引率を含め42名が参加した。今回の行き先は徳島県で、河野メリクロン、脇町（うだつの町並み）、藍の館を順に訪問した。

河野メリクロンでは、主として同社で栽培された様々な蘭を見学した。その種類の多さおよび量は、印象深いものだった。蘭に関する製品も展示されていた。次に訪れた脇町は、今回特に時間を多くとった見学場所である。うだつの町並みにおいては、ガイド付き散策を実施した。学生たちは、様々な「うだつ」と時代による変化などを学んだ。英語による解説も含め、非常に内容が充実していた。最後に訪れた藍の館では、各自が藍染めを体験し、自分自身のおみやげとした。

# 瀬戸内国際芸術祭2013に関連する取り組み

インターナショナルオフィス　高　水　　徹

平成25年度は、県の大きなイベントとして、瀬戸内国際芸術祭2013が実施された。本芸術祭は、2010に引き続きトリエンナーレとして行われたもので、かなりの集客を誇るものである。香川大学としても、本芸術祭に積極的に関わっていくこととなり、インターナショナルオフィスとしても留学生または国際に関わる面で、関与していくこととなった。

留学生関連の取り組みは、「留学生による本島・粟島活性化プロジェクト」として、公益財団法人中島記念国際交流財団の助成を受けている。具体的には最後に実施した総括のためのシンポジウムがこれに該当する。

また、教育活動として全学からアプローチしたのが、「地域活動」の授業であり、インターナショナルオフィスは１つのプロジェクト「本島・粟島国際交流プロジェクト」を提供した。本プロジェクトにおいては、特別聴講学生として本学に１年間留学している学生に中心的に活動してもらったが、この授業外の行事も含めた活動全体を「島プロジェクト」と称して、日本人学生や、その他の留学生にも積極的な参加を促した。

**「地域活動」における活動一覧**

| 日にち | 曜日 | イベント名 | イベント内容 |
|---|---|---|---|
| ４月13日 | 土 | 本島、お接待の体験 | 本島の33か所でお接待の体験 |
| ４月29日<br>４月30日 | 月<br>火 | 粟島、お接待の体験 | 粟島でお接待の体験 |
| ５月17日 | 金 | 説明会、今後の計画 | 学生参加者20名ぐらい、説明会、今後の計画、Ｔシャツの Design 作成など、予防注射 |
| ６月１日 | 土 | 本島、地鎮祭 | 本島、笠島地区で、地鎮祭。笠島公民館で子豚丸焼き。「埋め墓」の見学もした。 |
| ６月８日 | 土 | 本島シーボルトガーデン作業 | 本島のシーボルトガーデンで庭の整備を行う |
| ７月９日 | 火 | 授業に関する説明会 | 今後の授業計画・授業参加について |
| ７月21日 | 日 | 本島、正覚院山寺夏祭り参加 | 伝統行事の見学と考察 |
| ７月28日 | 日 | 粟島、海ほたる鑑賞会 | 事前課題の学習および海ほたるの観察 |
| ８月６日 | 火 | 詫間町内小学生との交流会 | 自己紹介、国の紹介、クイズを通した交流 |
| ９月28日 | 土 | 高校生とのボランティア活動<br>＆交流会 in 粟島 | クイズを通した交流および秋会期に向けての準備 |
| 12月25日 | 水 | 島プロジェクト反省会（三豊市役所） | 山北氏、三豊市との反省会。その後大学内でミーティング |

島プロジェクトには、学習活動の側面のみならず、芸術祭を側面から支えるボランティアの側面もある。また、上記一覧からも明らかなように、伝統行事の参加者、ないし若者の提供元という意味合いもある。加えて、交流活動においては、子どもたちに多様な文化を教える役割も担った。

上記授業外の活動としては、Ｔシャツやフリーペーパーの作成、シンポジウムへの参加（後述）などを行った他、芸術祭の出展作品の１つである、「善根湯×版築プロジェクト」の版築作業に参加した。

このような広義の学習活動の総括として、平成26年１月17日㈮にサンポートホール高松にて実施されたのが、シンポジウム「留学生と地域でつくる国際交流」である。来賓として瀬戸芸実行委員会事務局次長の内田氏、基調講演に瀬戸芸総合ディレクターの北川フラム氏、パネリストには北川

氏に加え建築家の齋藤正氏、三豊市政策部の豊島智氏をお招きし、本学教育学部青山夕夏教授、その他四国学院大学や本学の多くの学生の協力を得て、事業概要、活動報告、パネルディスカッションを実施することができた。

島・地域・日本を知る契機としての瀬戸芸の意義が再確認されたほか、地元のニーズや若者への期待についても話し合われ、北川氏による学生の個の力を期待するコメントで締めくくられた。この場をお借りして、改めて多数の皆様のご協力に感謝したい。

# 交流活動報告

インターナショナルオフィス　ロン　リム

平成25年度には、47件の交流活動を記録した。学生の参加者数は、合計1225名だった。そのうち、留学生の参加者数は809名で、日本人学生参加者数は416名である。活動内容に基づいて分析すると、５つのタイプの活動が見られる。

第１タイプの活動は、インターナショナルオフィスが主導を取って実施する活動である（表１参照）。場合によって、KUFSA 香川大学留学生会と ICES 香川大学異文化交流会の協力を得て実施する。年に２回実施する、新入留学生の歓迎会はこのタイプに入っている。他に留学生寮で行われるイベントや課外教育行事や工場見学会がある。参加は449名で、そのうち、留学生は334名で、日本人学生は115名だった。

**表１**

（人）

| 開催日時 | 事　業　名 | 留学生 | 日本人学生 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|
| ４月６日㈯<br>15：30～17：00 | 春季新入留学生を囲んでの情報交換会 | 60 | 40 | 100 |
| ８月３日㈯<br>11：00～13：00 | 花園寮交流会 | 9 | 2 | 11 |
| ９月24日㈫<br>～25日㈬ | 第１回　課外教育行事　（徳島県等） | 34 | 0 | 34 |
| 10月５日㈯<br>15：30～17：00 | 秋季新入留学生を囲んでの情報交換会 | 45 | 21 | 66 |
| 12月６日㈮ | 留学生交歓会（教職員35、来客45、全体255） | 135 | 50 | 185 |
| ２月14日㈮<br>14：00～16：00 | 企業見学会　株式会社長峰製作所 | 17 | 0 | 17 |
| ２月24日㈪ | 第２回　課外教育行事 | 34 | 2 | 36 |
| | 合　　計 | 334 | 115 | 449 |

第２タイプの活動も、インターナショナルオフィスがほぼ単独で実施したものである（表２参照）。このタイプの特徴は、本学の授業の一環として実施している活動であるということだ。具体的に言うと、瀬戸内国際芸術祭との関連で、塩飽諸島の本島と粟島の島民との交流を図る活動である。活動の回数は８回で、参加者の延べ数は129名で、その内、留学生は92名、日本人学生は37名であった。

**表２**

（人）

| 開催日時 | 事　業　名 | 留学生 | 日本人学生 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|
| ４月13日㈯<br>７：30～16：30 | 本島国際交流プロジェクト　お大師まいりでのお接待体験 | 13 | 5 | 18 |
| ４月29日㈪<br>～４月30日㈫<br>13：30～翌　日<br>16：30 | 粟島国際交流プロジェクト　島四国でお接待体験 | 10 | 3 | 13 |
| ６月１日㈯<br>10：45～19：00 | 本島国際交流プロジェクト　出展作家の地鎮祭参加 | 9 | 2 | 11 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 7月1日(月) | 本島・粟島国際交流プロジェクト　フリーペーパー及びTシャツづくり | 7 | 3 | 10 |
| 7月21日(日) | 本島国際交流プロジェクト　山寺の夏祭り参加 | 15 | 1 | 16 |
| 7月28日(日) | 粟島国際交流プロジェクト　海ほたる鑑賞会参加 | 23 | 2 | 25 |
| 9月28日(土)<br>8：00～14：20 | 粟島国際交流プロジェクト　ボランティア活動及び交流会 | 9 | 1 | 10 |
| 7月1日(月)<br>～7月12日(金) | 日本語語学研修プログラム研修生の学生サポートBuddiesの活動（歓迎会、送別会含む） | 6 | 20 | 26 |
| | 合　　計 | 92 | 37 | 129 |

タイプ3の交流活動は香川県留学生等地域連絡協議会の下で、インターナショナルオフィスが主導を取って実施する活動である（表3を参照）。ホームビジットや企業見学会などへの留学生の参加者数は63名だった。

**表3**

（人）

| 開催日時 | 事　業　名 | 留学生 | 日本人学生 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|
| 6月30日(日) | ホームビジット第1期1日目 | 6 | 0 | 6 |
| 7月7日(日) | ホームビジット第1期2日目 | 5 | 0 | 5 |
| 12月8日(日) | ホームビジット第2期 | 16 | 0 | 16 |
| 8月6日(月)<br>14：00～16：00 | 企業見学会　株式会社アムロン | 11 | 0 | 11 |
| 1月17日(金)<br>10：00～11：30 | 作文コンテスト | 25 | 0 | 25 |
| | 合　　計 | 63 | 0 | 63 |

タイプ4の交流活動は、インターナショナルオフィスは一歩下がって、学生が主体的に運営する活動である（表4参照）。これらのイベントは、通称「Monday　Event」として実施している。ほぼ毎週の月曜日の昼休みに、ICES香川大学異文化交流会が、インターナショナルオフィスと連携して、イベントを実施する。イベントはもともと3つの種類があった。のち、映画上映会を除いて、ランチプレゼンテーション会とコーヒータイムという2つの企画をすることになっている。延べ参加者数は、404名で、その内訳は、留学生191名で、日本人学生213名である。

**表4**

（人）

| 開催日時 | 事　業　名 | 留学生 | 日本人学生 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|
| 4月15日(月)<br>12：10～12：50 | コーヒータイム | 12 | 20 | 32 |
| 4月22日(月)<br>12：10～12：50 | ランチプレゼンテーション会 | 1 | 14 | 15 |
| 5月13日(月)<br>12：10～12：50 | コーヒータイム | 4 | 17 | 21 |
| 5月20日(月)<br>12：10～12：50 | 映画上映会 | 8 | 17 | 25 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 5月27日(月)<br>12：10～12：50 | ランチプレゼンテーション会 | 6 | 11 | 17 |
| 6月3日(月)<br>12：10～12：50 | コーヒータイム | 10 | 10 | 20 |
| 6月10日(月)<br>12：10～12：50 | 映画上映会 | 7 | 16 | 23 |
| 6月17日(月)<br>12：10～12：50 | 映画上映会 | 6 | 11 | 17 |
| 6月24日(月)<br>12：10～12：50 | ランチプレゼンテーション会 | 18 | 19 | 37 |
| 7月1日(月)<br>12：10～12：50 | 映画上映会 | 5 | 11 | 16 |
| 7月8日(月)<br>12：10～12：50 | コーヒータイム | 10 | 10 | 20 |
| 10月21日(月)<br>12：10～12：50 | コーヒータイム | 13 | 5 | 18 |
| 10月28日(月)<br>12：10～12：50 | ランチプレゼンテーション会 | 9 | 5 | 14 |
| 11月11日(月)<br>12：10～12：50 | コーヒータイム | 14 | 5 | 19 |
| 11月18日(月)<br>12：10～12：50 | 映画上映会＋コーヒータイム | 16 | 3 | 19 |
| 11月25日(月)<br>12：10～12：50 | ランチプレゼンテーション会 | 15 | 6 | 21 |
| 12月2日(月)<br>12：10～12：50 | コーヒータイム | 8 | 5 | 13 |
| 12月9日(月)<br>12：10～12：50 | 映画上映会 | 5 | 10 | 15 |
| 12月16日(月)<br>12：10～12：50 | ランチプレゼンテーション会 | 8 | 5 | 13 |
| 1月20日(月)<br>12：10～12：50 | コーヒータイム | 7 | 4 | 11 |
| 1月27日(月)<br>12：10～12：50 | ランチプレゼンテーション会 | 5 | 5 | 10 |
| 2月3日(月)<br>12：10～12：50 | コーヒータイム | 4 | 4 | 8 |
| | 合　　計 | 191 | 213 | 404 |

最後に、5タイプ目の交流活動は、KUFSA香川大学留学生会とICES香川大学異文化交流会が主導し、地域の国際交流団体と連携して、企画・実施するイベントである（表5参照）。もっとも代表的なイベントは、日帰り島めぐりだ。今回、小豆島へのイベントを企画した。これらのイベントは、地元の団体の支援がなければ、実施はできないと思われる。参加者の延べ人数は、180名で、留学生の人数129名、日本人学生の人数51名だった。

**表5**

（人）

| 開催日時 | 事　業　名 | 留学生 | 日本人学生 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|
| 7月14日(日) | 日帰り旅行（小豆島） | 44 | 31 | 75 |
| 1月11日(土) | さぬきお正月会 | 40 | 20 | 60 |
| 8月10日(土) | 世界食文化（綾川町） | 18 | 0 | 18 |
| 8月10日(土) | 世界食文化（綾川町） | 18 | 0 | 18 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 10月27日(日)<br>13：30～16：30 | 国際交流茶会（中候文化振興財団主催） | 12 | 0 | 12 |
| | 合　　計 | 129 | 51 | 180 |

# 就職支援プログラム

インターナショナルオフィス　高　水　　徹

平成25年度の本学における留学生を対象とした就職支援の多くは、中小企業庁・全国中小企業団体中央会の「地域中小企業の海外人材確保・定着支援事業」の一環として実施した。本事業は、日本国内の外国人留学生を活用し、中小企業の海外展開を支援するため、中小企業と外国人留学生などのグローバル人材とのマッチング、人材育成・定着を行うものである。四国地域においては、四国生産性本部が実施機関となり、本事業が採択された。香川県での実施に際しては、香川県留学生等国際交流連絡協議会の一員および事務局設置機関として、本学も緊密に連携している。

中小企業の魅力研究セミナー＆交流会

平成25年７月４日㈭には、中小企業の魅力研究セミナー＆交流会」が実施された。初めに、中小企業基盤整備機構コーディネータの中庭正人氏が、「魅力ある四国の中小企業」と題して、四国内の中小企業について紹介を行った。その後、製造業や卸売等の分野からの企業と留学生が交流を行った。留学生は貴重な機会を活用して、積極的に様々な質問をしていた。

留学生就職活動準備セミナー

平成25年11月１日㈮、香川県社会福祉総合センター第一中会議室において、留学生就職活動準備セミナーを実施した。構成は第１部：就活体験談、第２部：日本文化基礎講座、第３部：キャリアアドバイザーの留学生支援の３部構成で、18名の留学生が参加した。留学生にとって、就活の実践的知識とその背景の日本文化を習得でき、さらに先輩の話を聞くことができる有意義なセミナーとなった。

外国人留学生向け就職フェア参加のためのバスツアー

平成25年12月23日㈪、グローバルリーダー主催の就職フェアに参加するためのバスツアーを実施し、22名の留学生が参加した。フェアはマイドームおおさかで行われ、31社がブースを設けて説明を実施し、留学生たちは熱心に聞き入っていた。

留学生就職活動支援セミナー

平成25年12月25日㈬、研究交流棟５階　研究者交流スペースにて同セミナーを実施した。講師はアビリティーセンター株式会社が担当し、12名の留学生が参加した。自己分析や面接に関するレクチャーの後、就活におけるコミュニケーションやマナーの実践的トレーニングを行った。留学生による実践の後、講師からのフィードバックがあり、同社社員である先輩留学生の体験談も含まれた、参加者にとって非常に有用なセミナーであった。

企業合同就職説明会

平成26年１月25日㈯、高松商工会議所大ホールにて、企業合同就職説明会が実施された。留学生にとっては、四国内の企業の情報を入手することができる機会となった。企業側は６社、留学生は

10名が参加した。学生たちがブースを回った後、交流会も実施され、交流を深めることができた。

外国人留学生対象　企業見学会

平成26年２月14日㈮、香川大学が事務局を務める香川県留学生等国際交流連絡協議会との共催で、「外国人留学生対象　企業見学会」を実施した。見学先は長峰製作所である。本学からの参加者は１名のみだったが、本事業全体の参加者は28名だった。会社概要や工場概要についての説明および工場内部の見学が実施された。質疑応答も含め、大変丁寧に対応していただいた。

以上は「地域中小企業の海外人材確保・定着支援事業」の一環であるが、それ以外にも、百十四銀行によるセミナーや、香川県中小企業家同友会によるイベント等が実施された。

**表１　平成25年度留学生就職支援概要**

| 行事名 | 開催日時 | 実施場所等 | 参加人数 | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 交流会 | 平成25年<br>６月18日㈫ | アイパル香川 | 14 | 香川県中小企業家同友会主催<br>参加依頼あり |
| 中小企業の魅力研究セミナー＆交流会 | 平成25年<br>７月４日㈭ | 研究交流棟５Ｆ | 13<br>（８） | 四国生産性本部が実施 |
| 入国、在留に関する実務懇談会<br>留学生採用支援セミナー | 平成25年<br>７月26日㈮ | 研究交流棟５Ｆ | 35 | 香川県留学生等国際交流連絡協議会と共催<br>教職員、企業人事担当者対象 |
| 留学生就職活動準備セミナー | 平成25年<br>11月１日㈮ | 香川県社会福祉総合センター | 18 | |
| 中小企業家との意見交換会 | 平成25年<br>11月18日㈪ | 高松大学食堂 | 6 | 香川県中小企業家同友会主催<br>参加依頼あり |
| 外国人留学生向け就職フェア参加のためのバスツアー | 平成25年<br>12月23日㈪ | 大阪 | 22 | |
| 留学生就職活動支援セミナー | 平成25年<br>12月25日㈬ | 幸町キャンパス | 12 | |
| 企業合同就職説明会 | 平成26年<br>１月25日㈯ | 高松商工会議所大ホール | 10 | 四国生産性本部が実施 |
| 内定者研修 | 平成26年<br>１月27日㈪ | 高松大学 | 9<br>（３） | 四国生産性本部が実施 |
| 企業見学会 | 平成26年<br>２月14日㈮ | 長峰製作所 | 28<br>（１） | 香川県留学生等国際交流連絡協議会と共催 |
| 百十四銀行就職セミナー | 平成26年<br>２月17日㈪ | 百十四銀行研修館 | 12 | 百十四銀行から依頼あり |

（　）内は内数で本学学生

**表２　卒業・修了留学生の進路（平成25年度データ）**

| 進路先 | 人数 |
|---|---|
| 就職(県内) | 7 |
| 就職(海外) | 4 |
| 就職(県外) | 1 |
| 進学 | 4 |
| 就職活動中(日本) | 7 |
| 帰国　他 | 5 |
| 合　　計 | 28 |

| 就職先（産業別） | 人数 |
|---|---|
| 製造業 | 9 |
| 情報通信 | 1 |
| 卸売・小売 | 1 |
| 医療・福祉 | 1 |
| 合　　計 | 12 |

進　学

香川大学大学院工学研究科、愛媛大学大学院連合農学研究科　他

進学

香川大学大学院経済学研究科、兵庫県立大学大学院会計研究科（会計専門職大学院）
奈良女子大学大学院博士課程（研究生）

就職（県内）

㈱大倉工業、㈱ニチレイフーズ、日清食品ホールディングス㈱、日プラ㈱、
宝田電産㈱（総合職）

就職（県外）

㈱パーソナルネット、㈱ファミリーマート東京本社、四国化工機㈱、GU㈱、
ユニ・チャーム株式会社

就職（海外）

河北医科大学第一病院（医師）（中国）

# 香川大学インターナショナルオフィス規則

（趣旨）

第１条　この規則は、国立大学法人香川大学組織規則第18条の２の規定に基づき、香川大学インターナショナルオフィス（以下「オフィス」という。）に関し必要な事項を定める。

（目的）

第２条　オフィスは、香川大学（以下「本学」という。）の国際交流の窓口機関として、情報収集及び発信を一元化すると共に、国際戦略の構築並びに教育研究等の国際的な連携、学内の各組織の有機的な連携、地域の国際交流・協力活動との連携を推進することで、本学並びに地域の国際交流の推進に資することを目的とする。

（構成）

第３条　オフィスは前条の目的を達成するために、次の各号に掲げる組織を置く。

⑴　国際研究支援センター

⑵　留学生センター

２　前項の組織に関し必要な事項は別に定める。

（業務）

第４条　オフィスはオフィスを構成する組織の相互の連携協力を図ると共に、次に掲げる業務を行う。

⑴　本学の国際化基本方針に基づき、国際交流に係る企画及び立案に関すること。

⑵　国際交流協定の締結、その他の外国の機関との交流に関すること。

⑶　国際交流活動に係る情報を収集・分析し、国際交流の推進に必要となる情報を学内外へ提供し、国際的な情報発信の強化に関すること。

⑷　国際交流推進事業展開のための外部資金獲得に関すること。

⑸　地域における国際交流の支援に関すること。

⑹　国際交流に係る危機管理に関すること。

⑺　その他オフィスの管理・運営並びに本学の国際交流推進に関し必要な業務に関すること。

（組織）

第５条　オフィスは、次の各号に掲げる者で組織する。

⑴　オフィス長

⑵　専任教員

⑶　その他必要な職員

２　オフィスに副オフィス長を置くことができる。

３　オフィスに、部局に所属しオフィスの業務を兼任する教員（以下「兼任の教員」という。）を置くことができる。

（オフィス長）

第６条　オフィス長の任命は、本学理事及び職員の中から学長が指名する理事又は副学長（以下「担当理事又は副学長」という。）の推薦に基づき、学長が行う。

２　オフィス長は、オフィスの業務を掌理する。

３　オフィス長の任期は２年とし、再任を妨げない。ただし、任期の末日は、オフィス長を任命する学長の任期の末日以前とする。

４　前項の規定にかかわらず、オフィス長が辞任をした場合又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

（オフィス長の選考時期）

第７条　オフィス長の選考は、次の各号の１に該当する場合に行う。

⑴　任期が満了するとき。

⑵　辞任を申し出たとき。

⑶　欠員となったとき。

２　オフィス長の選考は、前項第１号の場合には任期満了の１月以前に、同項第２号又は第３号の場合には速やかに、行うものとする。

（副オフィス長）

第８条　副オフィス長の任命は、本学教職員の中から担当理事又は副学長の申し出に基づき、学長が行う。

２　前項の申し出はオフィス長が副オフィス長候補者を担当理事又は副学長に推薦することにより行う。

３　副オフィス長はオフィス長の業務を補佐する。

４　副オフィス長の任期は２年とし、再任を妨げない。ただし、任期の末日は、副オフィス長を任命する学長の任期の末日以前とする。

５　前項の規定にかかわらず、副オフィス長が辞任をした場合又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

（専任教員）

第９条　専任教員の選考に関し必要な事項は別に定める。

（兼任の教員）

第10条　兼任の教員は、本学専任教員で国際交流の推進に関し専門的知識及び経験を有する者のうち、担当理事又は副学長の推薦に基づき、学長が委嘱する。

２　兼任の教員の任期は２年とし、再任を妨げない。ただし、任期の末日は、兼任の教員を指名する学長の任期の末日以前とする。

３　前項の規定にかかわらず、兼任の教員が辞任をした場合又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

（会議）

第11条　オフィスに、オフィスの重要事項を審議するため、香川大学インターナショナルオフィス会議（以下「オフィス会議」という。）を置く。ただし、オフィス会議の議決事項については、担当理事の承諾を経て決定されるものとする。

2　オフィス会議に関し必要な事項は担当理事が別に定める。

（事務）

第12条　オフィスの事務は、部局の協力を得て国際グループにおいて処理する。

（雑則）

第13条　この規則に定めるもののほか、オフィスの業務に関し必要な事項は、別に定める。

附　則

この規程は、平成21年４月１日から施行する。

附　則（平成21年10月１日）

1　この規則は、平成21年10月１日から施行する。

2　第11条の担当理事は、当分の間、担当副学長と読み替えて適用する。

附　則（平成23年５月１日）

この規則は、平成23年５月１日から施行する。

# 香川大学インターナショナルオフィス会議規程

（趣旨）

第１条　この規程は、香川大学インターナショナルオフィス規則（以下「オフィス規則」という。）第11条に規定する香川大学インターナショナルオフィス会議（以下「オフィス会議」という。）に関し必要な事項を定める。

（組織）

第２条　オフィス会議は、次に掲げる委員をもって組織する。

⑴　オフィス長

⑵　オフィス規則第５条第２項に定める副オフィス長

⑶　オフィス規則第３条第１項に定める組織の長

⑷　専任教員

⑸　オフィス規則第５条第３項に定める兼任の教員

⑹　教育・学生支援部長

⑺　学術部長

⑻　国際グループリーダー

⑼　その他オフィス長が必要と認めた者

２　前項第９号の委員は、学長が任命する。

（審議事項）

第３条　オフィス会議は、次に掲げる事項について審議する。

⑴　本学の国際化基本方針に基づく国際戦略の企画・推進に関する事項

⑵　規則その他の制定又は改廃に関する事項

⑶　組織の設置又は廃止に関する事項

⑷　教員の選考に関する事項

⑸　予算及び施設・設備に関する事項

⑹　評価に関する事項

⑺　その他オフィス長が必要と認める事項

（会議の主宰及び議長）

第４条　オフィス会議に議長を置き、オフィス長をもって充てる。ただし、オフィス長に事故あるときは、あらかじめオフィス長の指名した者がその職務を代行する。

２　議長は、オフィス会議を主宰する。

３　オフィス会議は、議長の招集により開催するものとする。

（会議の議事運営）

第５条　オフィス会議は、構成員の過半数の出席がなければ、議事を開くことができない。

２　議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

3　第3条第1項第4号及び第6号の議事については、第2条第1項第9号の委員は可否の数にかかわることができない。
4　第2項にかかわらず、特別の必要があるとオフィス会議が認めるときは、第2項に定める要件以外の定めをすることができる。

（構成員以外の者の出席）
第6条　議長は、必要があるときは、オフィス会議の承認を得て、構成員以外の者を会議に出席させることができる。ただし、この者は、可否の数に加わることができない。

（事務）
第7条　オフィス会議の事務は、国際グループにおいて処理する。

（雑則）
第8条　この規程に定めるもののほか、オフィス会議の議事及び運営の方法について必要な事項は、オフィス会議が別に定める。

附　則
この規程は、平成21年4月1日から施行する。
附　則
この規程は、平成21年10月1日から施行する。

# 香川大学国際研究支援センター規程

（趣旨）

第１条　この規程は、香川大学インターナショナルオフィス規則（以下「オフィス規則」という。）第３条第２項の規定に基づき、香川大学国際研究支援センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定める。

（目的）

第２条　センターは、香川大学（以下「本学」という。）における国際的な研究交流の支援及び本学の国際化基本方針に基づく国際戦略の実施について中心的な役割を果たすことにより、本学における国際的な学術交流の推進に寄与することを目的とする。

（業務）

第３条　センターは、次の各号に掲げる業務を行う。

⑴　特色ある国際共同研究及び国際展開プロジェクトの企画・開発及び推進に関すること。

⑵　海外の研究機関との交流に関すること。

⑶　海外学術ネットワークの強化に関すること及び海外の学術動向に関する調査に関すること。

⑷　海外教育研究拠点校との学術交流の支援に関すること。

⑸　各部局が実施する学術交流の支援に関すること。

⑹　その他前条の目的を達成するために必要な業務。

（職員）

第４条　センターに、次の各号に掲げる職員を置く。

⑴　センター長

⑵　センター担当教員

⑶　その他必要な職員

２　センターに、副センター長を置くことができる。

（センター長）

第５条　センター長の任命は、本学職員の中からインターナショナルオフィス長（以下「オフィス長」という。）が学長が指名した理事又は副学長（以下「担当理事又は副学長」という。）に申出を行い、担当理事又は副学長の推薦に基づき、学長が行う。

２　センター長は、センターの業務を掌理する。

３　センター長の任期は２年とし、再任を妨げない。ただし、任期の末日は、センター長を任命する学長の任期の末日以前とする。

４　前項の規定にかかわらず、センター長が辞任をした場合又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

（副センター長）

第６条　副センター長の任命は、オフィス長が担当理事又は副学長に申出を行い、担当理事又は副学長の推薦に基づき、学長が行う。

２　前項の申出は、センター長とオフィス長の協議により行う。

３　副センター長は、センター長を補佐し、センターの業務を整理する。

４　副センター長の任期は２年とし、再任を妨げない。ただし、任期の末日は、副センター長を任命する学長の任期の末日以前とする。

５　前項の規定にかかわらず、副センター長が辞任をした場合又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

（センター担当教員）

第７条　センター担当教員の任命は、センター長の推薦に基づき、担当理事又は副学長の了承を得てオフィス長が行う。

（事務）

第８条　センターに関する事務は、国際グループにおいて処理する。

（雑則）

第９条　この規程に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、センター長が別に定める。

附　則

この規程は、平成21年４月１日から施行する。

附　則（平成21年10月１日）

この規程は、平成21年10月１日から施行する。

附　則（平成23年５月１日）

この規程は、平成23年５月１日から施行する。

# 香川大学留学生センター規程

（趣旨）

第１条　この規程は、香川大学インターナショナルオフィス規則（以下「オフィス規則という）第３条第２項の規定に基づき、香川大学留学生センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定める。

（目的）

第２条　センターは、外国人留学生（以下「留学生」という。）及び海外留学を希望する香川大学（以下「本学」という。）の学生に、必要な教育及び指導助言等を行うことにより、本学における国際交流の推進に寄与することを目的とする。

（業務）

第３条　センターは、次の各号に掲げる業務を行う。

⑴　留学生の受入に関すること。

⑵　留学生に対する日本語等の教育に関すること。

⑶　留学生に対する修学上及び生活上の指導助言等に関すること。

⑷　留学生に係る奨学に関すること。

⑸　留学終了者に対するフォローアップに関すること。

⑹　学生の海外留学に関すること。

⑺　地域における留学生交流に関すること。

⑻　留学生教育等に係る調査研究に関すること。

⑼　留学生会館の管理・運営並びに入退居に関すること。

⑽　その他センターの管理・運営並びに学生の国際交流に関すること。

（職員）

第４条　センターに、次の各号に掲げる職員を置く。

⑴　センター長

⑵　センター担当教員

⑶　その他必要な職員

２　センターに、副センター長を置くことができる。

（センター長）

第５条　センター長の任命は、本学専任教授の中からインターナショナルオフィス長（以下「オフィス長」という。）が学長が指名した理事又は副学長（以下「担当理事又は副学長」という。）に申出を行い、担当理事又は副学長の推薦に基づき、学長が行う。

２　センター長は、センターの業務を掌理する。

３　センター長の任期は２年とし、再任を妨げない。ただし、任期の末日は、センター長を任命する学長の任期の末日以前とする。

4　前項の規定にかかわらず、センター長が辞任をした場合又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

（副センター長）

第6条　副センター長の任命は、オフィス長が担当理事又は副学長に申出を行い、担当理事又は副学長の推薦に基づき、学長が行う。

2　前項の申出は、センター長とオフィス長の協議により行う。

3　副センター長は、センター長を補佐し、センターの業務を整理する。

4　副センター長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、任期の末日は、副センター長を任命する学長の任期の末日以前とする。

5　前項の規定にかかわらず、副センター長が辞任をした場合又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

（センター担当教員）

第7条　センター担当教員の任命は、センター長の推薦に基づき、担当理事又は副学長の了承を得てオフィス長が行う。

（事務）

第8条　センターに関する事務は、国際グループにおいて処理する。

（雑則）

第9条　この規程に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、センター長が別に定める。

附　則

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

附　則

この規程は、平成21年10月1日から施行する

# インターナショナルオフィス教職員一覧

2013.11.1

教　員　※（兼）は兼任を示す

《インターナショナルオフィス》

（兼）オフィス長／板野（いたの）　俊文（としふみ）

（兼）副オフィス長／教授／ロン　リム

講師／細田（ほそだ）　尚美（なおみ）

講師／高水（たかみず）　徹（とおる）

講師／塩井（しおい）　実香（みか）

講師／正楽（しょうらく）　藍（あい）

非常勤教員／金（キム）　錫換（ソッファン）

（兼）教授／高木由美子（たかぎゆみこ）　（教育学部）

（兼）教授／山本（やまもと）　慎一（しんいち）　（法学部）

（兼）教授／朴（パク）　恩芝（ウンジ）　（経済学部）

（兼）教授／徳田（とくだ）　雅明（まさあき）　（医学部）

（兼）教授／澤田（さわだ）　秀之（ひでゆき）　（工学部）

（兼）教授／加藤（かとう）　尚（ひさし）　（農学部）

（兼）教授／塚田（つかだ）　修（おさむ）
（地域マネジメント研究科）

〈留学生センター〉

（兼）留学生センター長／ロン　リム

非常勤講師／秋田（あきた）　節子（せつこ）

非常勤講師／早川（はやかわ）　理代（まさよ）

非常勤講師／和田（わだ）　方子（みちこ）

事務職員

《国際グループ》

リーダー／中野（なかの）　宏栄（ひろひで）
担当　総括

サブリーダー／尾松（おまつ）　俊嗣（しゅんじ）
インターナショナルオフィス業務

チーフ／浅野（あさの）　文恵（ふみえ）
留学生業務

チーフ／池田紗和子（いけださわこ）
留学生業務

グループ員／真鍋（まなべ）　圭（けい）
留学生業務

グループ員／古島（ふるしま）　愛（あい）
国際交流業務

グループ員／福家（ふけ）　徹也（てつや）
国際交流業務

グループ員／八木綾衣子（やぎあいこ）
国際交流業務

《インターナショナルオフィス》

グループ員／杉浦美智子（すぎうらみちこ）
留学生会館業務

グループ員／廣瀬（ひろせ）　和代（かずよ）
花園寮業務

グループ員／廣田（ひろた）　俗予（みちよ）
国際交流業務

香川大学インターナショナルオフィス年報　第５号

発　行　平成27年３月31日
発行者　香川大学インターナショナルオフィス
〒760－8521　香川県高松市幸町1－1
TEL：087－832－1194
FAX：087－832－1192
印刷所　牟禮印刷株式会社
TEL：087－822－2600（代）
FAX：087－822－0567，826－1448